

School of Law

法学部

School of Law

法学の力で、
社会の諸問題を解決する

MESSAGE

社会を自分の眼で捉え
未来を切り拓くりーガル・マインド

法学部の学問領域は、憲法・民法・刑法などの実定法を中心に、基礎法学や国際法など多岐にわたります。解釈論・立法論・比較法論の実践を通して、社会の出来事を多角的に捉え、自分なりに考察する力が養われます。私たちが重視するのは、少人数制のゼミナールの場。文献だけでは得られないような高度な専門知識を、「オーラル・トラディション(口述伝授)」によって獲得することができます。学生に期待することは、広い教養と法律知識を土台とし、社会課題を解決するための方向性を見出す「リーガル・マインド(論理的思考力)」の習得です。他人に流されるのではなく、自分の頭で考え、他者に論理的に伝える姿勢を大切にしてください。

学部長 長坂 純

PROFILE

1983年市立高崎経済大学卒業。その後、明治大学大学院、日本学術振興会特別研究員、九州歯科大学講師、清和大学助教授、帯広畜産大学教授を経て、2005年より明治大学法学部教授。主要科目は「民法(財産法)」。博士(法学)



正解のない社会に、強くなる

明治大学法学部の強み

豊かな法的素養を育む
教育プログラム

1 実践し思考力を磨く

双方向的な学びが可能な専門演習に加え、法学会の無料法律相談や弁論大会といった活動を通じて、実践的に学びます。



2 AI時代の法学を先駆する

AI・インターネット・個人情報・著作権等の情報社会を取り巻く問題について法的観点から理解する力が身につきます。



3 多様性と法の未来を考える

性、国籍、人種など多様性をめぐる法を学び、ともに生きる社会の在り方を考えます。



4 留学し視野を広げる

異文化の中で法制度を多角的に学び、グローバルな視野を獲得できます。



5 理想のキャリアを形成する

公務員としての就職割合が高いのが特徴です。就職のほか、進学、資格取得など、将来の目標に合わせたサポートを受けることができます。



5コース制で専門性を高めながら、 関連分野まで幅広く学べます

学科制とは異なる5つのコース制を採用しています。「法学」の知識は、弁護士や司法書士などの法律関連専門職はもちろん、公務員、金融、マスコミ、情報、通信などあらゆる分野で活かすことができます。入学後、自分の志望に合わせて、その進路に合ったコースを選択し、専門性を高めま。また、コースの枠を超えた授業履修も可能ですので、自分自身のテーマを探究しつつ、関連分野まで幅広く学ぶことができます。

▶ 学部独自の学生支援・助成制度

学生支援

詳細は学部ガイドp.10へ ▶

- ・法学部学習サポート
- ・在学中の六法配付(入学時および2年次)

助成制度

詳細は学部ガイドp.10、32へ ▶

- ・各種検定・資格試験助成
- ・国家試験指導センターの各研究所への入室／在籍費用助成

▶ 学部主催の留学制度

留学プログラム

詳細は学部ガイドp.27へ ▶

- ・ケンブリッジ大学コーパス・クリスティ・カレッジ夏期法学研修
- ・ハワイ大学春期法学研修
- ※上記プログラム参加費用助成制度有

協定校

南京師範大学(中国)／サンパウロ大学(ブラジル)／
国立台湾大学(台湾)

Curriculum 4年間のカリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
学びの特徴	法律の基礎と幅広い教養を習得。憲法・民法・刑法などの「法律必修科目群」で基礎を固め、「教養科目群」で多様な知識を身につけます。「法律リテラシー」では法学の学習法も学びます。	将来の進路に合わせたコースに所属。5つのコース(ビジネスロー、国際関係法、法と情報、公共法務、法曹)に分かれ、専門科目を系統立てて学び始めます。外国語教育も継続し、実践力を養います。	専門分野の深化と「専門演習」(ゼミ)の開始。コースごとの専門的な法律をより詳しく学びます。少人数制の「専門演習」で、発表や討論を通じて論理的思考力や伝える力といった実践力を鍛えます。	身につけた専門性をもとに自由な探求を行います。専門分野の学びを深めるとともに、バリエーション豊富な「自由選択科目群」で法律以外の学問も幅広く学び、卒業後の進路を見据えた学びを完成させます。
基礎科目群	法律リテラシー／法学部生のための日本語			
演習科目群	専門演習			
教養科目群	人間と科学(法と心理／スポーツと社会／生命と人間／科学と技術など)、社会と思想(倫理学／		政治社会学／歴史学／社会思想史など)、地域と文化(異文化理解／比較文化など)、テーマ講座	
外国語科目群	外国語科目I	外国語科目II	外国語科目III	
	英語／ドイツ語／フランス語／中国語／スペイン語／ロシア語／日本語(外国人留学生のみ)			
保健体育科目群	基礎運動実習／スポーツ実習			
法律必修科目群	憲法(人権・統治)／民法(総則・債権総論)／刑法(総論・各論)			
コース科目群		2年次 コース選択	ビジネスローコース／	国際関係法コース／法と情報コース／公共法務コース／法曹コース
その他	他学部履修科目／グローバル人材育成プログラム／情報関係科目／全学共通総合講座／留学基礎／		社会政策／経済政策／財政学／会計学 留学関係／教員職員免許状取得用科目	

注目の学び



司法演習

法曹や公務員を目指す学生を主な対象としたゼミです。法曹コース登録者のみ履修可能な「法曹コースクラス」と法曹コース以外の登録者が履修可能な「一般クラス」があります。「憲法」「民法」「刑法」を中心に、各分野のスペシャリストである教員が、重要判例などをもとにテーマを設定し、グループ討論などを通じて法的素養・思考力を高めていきます。担当教員またはテーマ(授業内容)が異なれば、在籍中に2つまで履修することができます。

Student Message

学生からのメッセージ



基礎を身につけたことで、興味のある分野が明確に

小林 春翔さん 法律学科3年 新潟県立新津高等学校卒業

明治大学法学部を選んだ理由は、基礎を身につけてからコースを選択できるカリキュラムに惹かれたからです。1年次に法曹や公務員、民間企業、国際関係、IT分野に関する法知識を幅広く学び、5つのコースから将来の選択肢をじっくり考えられます。私が特に興味を持った分野は、デジタル社会において注目されている、インターネットを使用した犯罪。企業は顧客の情報をインターネット上で適切に保存・保護することが求められています。個人情報保護と個人情報の取り扱いがより重要となる社会で、法と情報コースで学んだ法律知識を活かした職業に就き、活躍したいと考えています。

Alumni Message

卒業生からのメッセージ



法学部で磨いたスキルが、アナウンサーとしての力に

鹿野 未涼さん フリーアナウンサー・元KKB鹿児島放送アナウンサー
法律学科 2017年卒業 (福岡県私立筑紫女学園高等学校卒業)

「アナウンサーに向いていると思うよ」という母の言葉が、今の職業を選んだ原点になりました。アナウンサーは、発言の一言が大きな影響を持つ仕事です。だからこそ常に「伝え方」と「正確性」に気をつけなければいけません。在学中は法律の勉強を通じて、根拠ある情報を見極め、言葉に責任を持つ姿勢を養いました。また、法律は多様な立場の人々への影響を考えながら解釈する学問です。法学部の学びでは、ひとつの事象に対して多角的に考える能力が身につきました。こうした視点や思考の積み重ねが、今ではインタビューや番組台本を作成する際の構成員力につながっています。

各コースで学べること



授業レポート

会社法 柿崎 環 教授

企業の仕組みや活動について、法律がどのように規制しているのか、またなぜそのように規制しているのかを学びます。社会に出てからも、変化し続ける経済社会の最前線に目を向けることができますようになります。



授業レポート

フランス法 吉井 啓子 教授

授業では、フランスにおける家族や財産をめぐる法律問題について、日本と比較しながら勉強します。同性婚、遺産相続、動物虐待、高齢者の住居、老朽化マンション、債権担保の仕組みなど様々なテーマを取り上げます。



授業レポート

サイバー法 佐々木 秀智 教授

インターネット上で生じる様々な法的問題について考えていきます。ITの進歩は日進月歩なので、迅速かつ的確な法的対応を行うためには、現行法の理解を前提とした柔軟な思考が必要不可欠になります。



授業レポート

行政法 横田 明美 教授

安心して暮らせる社会のために、法律は行政機関に様々な権限を与えています。行政法では、行政機関の活動を支える共通原理と法的仕組みを体系的に学び、社会問題を解決するための制度設計の方法を考えます。



授業レポート

刑事訴訟法 黒澤 睦 教授

わが国の犯罪捜査は高い検挙率を誇り、刑事裁判の有罪率が99%を超えます。しかし、捜査・裁判や刑罰は人権制約を伴い、時には「えん罪」も起こります。授業では、効果的でより安全な刑事手続きの在り方を考えます。

ビジネスローコース

学部ガイド P.13

ビジネスにかかわる法律知識を学ぶ

民間企業に就職し、法務部門等で活躍することを希望する学生が対象です。会社法、経済法および知的財産法というビジネスに関連する法律を中心に、金融商品取引法、銀行取引法といった多様な法律科目、さらには Business Law in Englishなどの英語科目も配置。きめ細かい教育を行っています。

目指す 将来イメージ	<ul style="list-style-type: none">・企業経営や経済活動に関する豊富な法的リテラシーを持つビジネスパーソンとして、企業や団体に活躍する・ソフト商品を扱う企業で知的財産権の管理と活用によって法的な観点から経営戦略を立案する・企業組織の内部統制システムの構築と実践に取り組み、企業の法務部門で契約を有利に進める戦略を練る・海外との取引や海外子会社設立および海外での事業活動の展開など、国際的なビジネス法務に携わる
---------------	---

国際関係法コース

学部ガイド P.15

地球規模で通用する法的ルールを考える

国家間の共通のルールである国際法と、各国が外国との対外関係について定めた国内法の両面から、国際的な活動に関する法律について学びます。特徴的なのは、法律だけでなく文化に関する科目も設置していること。その国の社会を知ることによって国際関係法への理解も深められるようになっています。

目指す 将来イメージ	<ul style="list-style-type: none">・国連などの国際機関で活躍・海外の日系企業で現地のメンバーと協働するビジネスパーソン・人権・環境・経済援助などの活動をするNGOで活躍・メーカー・商社などの輸出入や投資にかかわる部門で活躍
---------------	---

法と情報コース

学部ガイド P.17

情報社会における問題解決能力を養う

インターネットやスマートフォンの普及により情報社会の利便性が飛躍的に拡大する一方、新たな検討課題も出現しています。問題解決に必要な現行法令を正確に理解する能力を養うとともに、IoTやAI等の情報関連の新規立法や内外の最新動向の情報を提供し、これからの社会を力強く生きる人材を育成します。

目指す 将来イメージ	<ul style="list-style-type: none">・企業の情報財・知的財産の管理・運用担当者・国・自治体の電子化された業務の管理・運用担当者・企業などの情報セキュリティ・危機管理の担当者、アドバイザー・行政機関、企業などにおける個人情報保護担当者
---------------	---

公共法務コース

学部ガイド P.19

幅広く活躍する公務員の土台をつくる

年々希望者が増加している、国家・地方公務員や法律関連専門職を目指すコースです。憲法や民法、行政法を中心に、各種試験の準備に役立つようにカリキュラムが構成されています。国家、地方公務員だけでなく、国税専門官や労働基準監督官など、多方面にわたる公務員を目指すことができます。

目指す 将来イメージ	<ul style="list-style-type: none">・国家・地方公務員として行政に携わる・国会の事務局・法制局などに勤務し、立法にかかわる仕事に携わる・行政書士の資格を取得する・税理士の資格を取得する
---------------	---

法曹コース

学部ガイド P.21

第一線の法曹実務家となる知識と能力を養う

裁判官、検察官、弁護士といった法曹と、その他法律関係の資格取得に特化したコースです。法科大学院入学、司法試験予備試験合格のために、憲法、民法、刑法、商法、民事訴訟法、刑事訴訟法の6科目を中心に学び、基礎的知識とリーガルマインドを身につけます。

目指す 将来イメージ	<ul style="list-style-type: none">・裁判官、検察官、弁護士、司法書士などの法律専門家・明治大学をはじめとする全国の法科大学院への進学・大学教員などの法律研究者・明治大学をはじめとする全国の大学院法学研究科への進学
---------------	--

▶ 教員紹介・研究テーマ

※2026年4月1日現在 ※退職等により変更となる場合があります。

科目	氏名	研究テーマ
憲法	大津 浩	国家構造と地方自治の憲法理論、自己決定権、憲法と文化、自治体人権法論
憲法	江島 晶子	多元的・非階層的・循環的な人権保障システム、グローバル立憲主義
憲法	辻 雄一郎	アメリカの司法審査、州際通商、大統領や行政機関
憲法	江藤 英樹	フランスの違憲立法審査権についての研究
教育法	斎藤 久	憲法と教育
行政法	下川 環	民主的責任行政の日米比較法研究
行政法	横田 明美	データ駆動社会における情報行政法、行政訴訟論、リスク制御のための法政策論
租税法	小林 宏之	租税法の基礎理論、所得課税法、消費課税法に関する研究
民法	林 幸司	契約の不成立、無効、取消、解除の研究
民法	長坂 純	契約責任の構造と射程、民事責任の分化史的諸相、役務提供契約論
民法	都筑 満雄	現代における複雑な契約関係、集団的消費者被害の救済、キャッシュレス決済法
民法	有賀 恵美子	契約締結過程における諸問題
民法	渡邊 泰彦	SOGI(性的指向・性自認)と家族法、日独家族法比較研究
民法	星野 茂	現代社会の家族をめぐる法的諸問題
民法	亀田 浩一郎	物的担保と公示方法
民法	神田 英明	契約の拘束力に関する基礎理論の再検討、善意者保護法理の再検討
刑法	内田 幸隆	刑法総論の理論的枠組みを背景とした財産犯体系の再構築
刑法	川口 浩一	刑法理論の哲学的基礎、AIと刑法、汚職・腐敗と刑法、医事刑法
刑法	石井 徹哉	自由主義に基づく刑法解釈学の構築
刑事訴訟法	黒澤 睦	刑事司法をめぐる諸問題の理論的検討
刑事訴訟法	石田 倫誠	被疑者・被告人の権利(黙秘権・弁護人依頼権)と刑事再審制度に関する研究
犯罪学・少年法	上野 正雄	犯罪統計活動および少年法・少年事件に関する諸問題
商法	南保 勝美	現代会社法制の基本問題とその比較法的考察
商法	柿崎 環	資本市場法規制におけるコーポレート・ガバナンス・システムのあり方
商法	根本 伸一	企業買収における少数株主保護
商法	高木 正則	商法上の諸問題、支払決済制度の発展に伴う法制度・法理論の展開
商法	陳 亮	保険をめぐる各種の法律問題とその比較法的研究
民事訴訟法	岡田 洋一	知的財産をめぐる訴訟上の諸問題
民事訴訟法	清水 宏	民事証拠法、弁護士業務に関する諸問題
民事訴訟法	柳川 鋭士	民事訴訟手続の迅速化に関する立法論的・解釈論的手段
労働法	小西 康之	労働法規整のあり方に関する考察
労働法	山川 隆一	労働紛争処理、労働法および労働政策の実現手法
社会保障法	小西 啓文	介護サービスの質の確保についての日独比較法研究
経済法	山部 俊文	経済法・独占禁止法に関する諸問題
知的財産法	金子 敏哉	知的財産法の相互比較、民法との対比による研究
医事法	小西 知世	看護制度・医療スタッフ間の業務分担構造に関する研究、医事法制史、医療AIに関する研究
法情報学	佐野 智也	法令デジタルアーカイブの構築、立法沿革・法制史史的分析
情報法	丸橋 透	インターネット上のプラットフォームの民事責任と公法上の責務
国際法	西元 宏治	条約法の現代的展開、国際法秩序の多元化と国際法上の紛争処理
国際法	水田 周平	海洋法・武力紛争をめぐる諸問題
国際私法	福井 清貴	国際私法における当事者自治の原則
外国法(中国法)	鈴木 賢	中国権威主義体制下における法の役割と限界、台湾/中国の「性」をめぐる法
外国法(ドイツ法)	中野 万葉子	近世自然法論、ヨーロッパ私法史

科目	氏名	研究テーマ
外国法(アメリカ法)	佐々木 秀智	アメリカ不法行為法理の現代的役割(公益実現の道具としてのtorts)の分析
外国法(フランス法)	吉井 啓子	日仏物権法における諸課題の研究
外国法(EU法)	佐藤 智恵	EU法が既存の国際法秩序に与える影響
法社会学	太田 勝造	交渉・ADR・訴訟による紛争解決、リーガル・マインド研究、弁護士論、法の経済分析など
法史学(東洋)	陶安 あんど	「漢語国家」の比較法史学的研究
法史学(西洋)	小室 輝久	ヨーロッパにおける法的紛争解決・統治・行政に関する歴史的諸問題
日本近代法史	岡崎 まゆみ	帝国日本における植民地法
法哲学	小林 史明	法と人文学に関する研究
法思想史(西洋)	亀本 洋	現代正義論史
英語	矢ヶ崎 淳子	アメリカ社会・文化と民族性
英語	斎藤 英治	現代米文学およびアメリカ映画史
英語	中村 和恵	英語圏を中心とする比較文学・比較文化およびマイノリティ研究
英語	辻岡 宏子	第二言語習得理論および外国語教育
英語	堀田 秀吾	法言語学、心理言語学、ウェルビーイング
英語	鈴木 哲也	コミュニケーションテクノロジーの発達と社会構造の変化の相関性
英語	荒木 和華子	19世紀アメリカ南部における奴隷解放と学校教育の歴史
英語	上村 威	国際関係、中国外交
英語	ダン、ジェームス デウィット	批判的思考とカリキュラム設計、異文化間コミュニケーション能力、ゲーミフィケーション
英語	五所 万実	商標実務への言語学的アプローチ
ドイツ語	シェアマン、スザンネ	映画学(映画史、映画理論)、映画制作、ドイツ語教育
ドイツ語	伊藤 真弓	19世紀転換期におけるドイツ語圏の文化と社会、ルーマニアの文化
ドイツ語	佐藤 公紀	近代ドイツにおける犯罪と刑罰の歴史、ダークツールズムと記憶の政治学
フランス語	岩野 卓司	哲学、思想史、贈与研究、共同体研究、パタユ研究
フランス語	渡辺 響子	19世紀フランス小説文学における身体表象
フランス語	田中 浩書	フランスと日本の政治と宗教・宗教社会学史
スペイン語	大嶋 栄三	19・20世紀交替期スペインの作家たち
スペイン語	松尾 俊輔	20世紀初頭南米における国家形成とスポーツの歴史
中国語	加藤 徹	中国伝統文化・表象文化
中国語	川野 明正	中国の民間信仰(呪術・呪符・土俗神)、少数民族文化(中国西南諸民族)
中国語	西川 和孝	漢族移民に起因する少数民族世界に起きた変化とその多角的分析
国語	田島 優	日本語の歴史、日本の方言
国語	神田 正行	江戸時代後期の文芸
国語	小財 陽平	18・19世紀の漢字文化と日本社会
国語	伊藤 剣	神話
エネルギーと環境	勝田 忠広	原子力政策、原子力工学
社会思想史	田中 ひかる	ドイツ・アナキズム史、ロシア・ユダヤ系移民史
哲学	越門 勝彦	メタ倫理学(道徳判断の成り立ち)、行為の哲学(自己知、行為者性、能力)、近現代フランス哲学
基礎運動実習	多田 聡	北欧の生活文化、障がいの野外活動とレクリエーション
基礎運動実習	釜崎 大	市民社会とプロスポーツの関係、ドイツのスポーツクラブ研究、身体文化史、身体論
基礎運動実習	土方 圭	野外教育の教育的意義に関する理論的検討
法律リテラシー	池田 武央	偽証罪に関する諸問題
法律リテラシー	古島 靖也	複数行為の分析的把握と統合的把握

School of Commerce

商学部

School of Commerce

創造性と学識を深め、
複雑な市場の未来に取り組む

MESSAGE

「総合的市場科学」を軸に、
理論と実践を兼ね備えた人材を育成

明治大学商学部は、一昨年度に120周年を迎えた伝統ある学部です。創設以来の教育理念は、「学理実際兼ね通ずる人材の育成」です。理論を学び、それを実践に活用する実学の精神を核とし、多様なプログラムを展開しています。また、本学部では商学を「総合的市場科学」と位置づけ、マーケティング、経営、経済、金融、会計などの領域を横断的に学習し、ミクロとマクロの複合的な視点から、市場にまつわる社会的課題に取り組む姿勢を養います。本学部はまさに学びの森です。たくさんの刺激が待つこの環境で、皆さんが学部全体のリソースをフル活用し、将来、社会の様々な場面で先導的な役割を果たす人材となることを期待しています。

学部長 高浜 光信

PROFILE

1996年神戸大学大学院博士課程後期単位取得満期退学。明治大学商学部専任助手、専任講師、助教授を経て、2005年より教授。専門は、国際経済学、国際マクロ経済学。研究テーマは通貨統合、通貨危機の経済分析。主な著書に『国際金融論のエッセンス』（共編著）、『ユーロとEUの金融システム』（共著）など。



市場を解き明かす知の力

明治大学商学部の強み

世界で活躍できる
ビジネスパーソンを育成

1 自分の興味に合ったコースを入学後に選択! 自由度の高い7つのコース制

1・2年次は基礎・総合教育科目を学び、3年次より7つの専門コースから自分の希望のコースを選択します。他のコースの科目も履修可能。自由度が高く、幅広く学べます。



2 課題を相対的に捉える力を養う 演習教育の「ダブル・コア」

商学に関するあらゆる領域を研究対象とする商学専門演習と教養系の総合学際演習の2つのゼミを2年次から3年間履修できます。異なる性質の2つのゼミを同時に履修することで複眼的思考力が身につきます。



3 地域・産学連携による 自主・自立型実践教育

自主・自立的に問題解決が図れる人材の育成プログラム「地域・産学連携による自主・自立型実践教育」を導入。社会の中で主体性を持って働くための基礎を学べます。



4 世界に羽ばたくための語学力を修得 多言語4年間一貫教育

TOEIC®、TOEFL®の団体受験や海外留学支援、3・4年次の「発展外国語」開講など、語学教育にも力を注いでいます。



1・2年次の基礎学習をもとに、 3年次より自分に合ったコースを選択

商学のあらゆる分野の基礎を学んでから、3年次より進路を自由に選べるコース制を採用しています。現代社会の情報化とグローバル化の動向をふまえて、〈実学・理論〉と〈情報化・グローバル化〉を軸とした7コースを設置し、学生の多様な志向に応じています。選択したコース以外の科目も履修することができるため、より幅広く学ぶことが可能であり、それらも卒業要件として認められます。

▶ 学部独自の助成制度

各種助成制度

- ・リバティアカデミー講座受講(無料)
- ・日商簿記検定 受験料助成
- ・初習外国語検定試験 受験料助成
- ・統計検定試験 受験料助成
- ・法制研究所・行政研究所・経理研究所の在籍料等助成
- ・TOEIC®/TOEFL®団体受験(無料)

▶ 学部主催の留学制度

学部間交換留学協定校

詳細は学部ガイドp.31へ

カーディフ大学 カーディフビジネススクール(イギリス) /
プレーメン経済工科大学(ドイツ) / レンヌ商科大学(フランス) /
パリ商業高等大学(ISCパリ)(フランス)

短期留学プログラム

詳細は学部ガイドp.32~33へ

- ・ミュンヘン大学付属語学学校 ドイツ語夏期集中講座
- ・The World of Australian Wine
- ・フレンチファッション・プログラム

Curriculum	4年間のカリキュラム			
	1年次	2年次	3年次	4年次
学びの特徴	和泉キャンパスでの授業を通して基礎能力を総合的に養います。1年次には、1名の教員につき20人以下の少人数クラスで、大学生としての「学問のルールと作法」を学ぶ『基礎演習』が必修。その他、文章表現や外国語、一般教養としての幅広い学びに加え、経済学、商業総論、経営学総論、会計学総論、統計学など、専門の基礎となる学びも充実しています。		7つのコースから自分の興味に合ったコースを選択。ゼミナールでの研究や論文作成(奨学論文、卒業論文)、資格試験などを通して、専門分野の知識を深めます。主に駿河台キャンパスで学びます。	
基礎教育科目	基礎演習 / 文章表現 / 経済学			
総合教育科目・総合学際演習	文化と芸術(日本文化史・西洋文化史・日本語表現論など) / 地域と社会(アジア史・地理学・社会学など) /		人間と自然(哲学・自然科学概論・生命科学など) / 外国人留学生のための科目	
外国語科目	英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・ロシア語・日本語			
保健体育科目	体育・スポーツ実習 / スポーツとグローバル化 / スポーツと健康	自分の興味に合った コースを選択	アプライド・エコノミクスコース	マーケティングコース
基本科目	商学 / 経済学 / 経済史 / 経営学 / 会計学 / 統計学		ファイナンス&インシュアランスコース	グローバル・ビジネスコース
基幹科目・商学専門演習	基幹英語科目		マネジメントコース	アカウンティングコース
応用展開科目	会計特殊講義 / 特別テーマ科目 / 地域活性化システム論 / 商業、交通、金融・証券などの特殊講義		クリエイティブ・ビジネスコース	
その他	憲法 / 民法 / 商法 / 労働法 / ICT(統計解析・データベース・画像編集・動画編集・音楽編集・プログラミング)		Webページ作成・eラーニングデザイン・プレゼンテーション	

注目の学び



商学部独自の 多言語4年間一貫教育

まず基礎となるのは、1・2年次に必修科目において行われる「既習外国語(英語)」と「初習外国語(ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・スペイン語・ロシア語から選択)」です。さらに熱心に外国語学習に取り組む3・4年生のために、10~20名で学ぶ多彩な選択科目を用意しています。意欲のある人は、全学部の1~4年生を対象として開講されている「学部間共通外国語科目」(11言語)も加えて受講し、ネイティブ教員のもとでさらに会話力を磨くことができます。

Student Message

学生からのメッセージ



持続可能な観光資源となるイベントの企画を目指して

林 真里奈さん アプライド・エコノミクスコース3年 三重県私立鈴鹿中等教育学校卒業

日本の中心である東京で実践的に経済を学べる点と、長い歴史・伝統があることが決め手となり、明治大学商学部を志望しました。入学後に実感したのは、ゼミを中心とした少人数教育で、一人ひとりの「やってみたい」という思いを後押ししてくれる環境の魅力です。知識を現実の課題に応用する力が、着実に身についていると感じています。たとえば、地域活性化プロジェクトでは、ゼロからイベントを企画・運営し、統計学や計量経済学を活かしたデータ分析にも挑戦できました。将来は、商学部で培った企画力と分析力を基盤に、地域の魅力を未来へつなぐ観光資源づくりに貢献したいと考えています。

Alumni Message

卒業生からのメッセージ



商学部で磨いた企画力と実行力で、自分の将来を切り拓く

大和 央知さん 本田技研工業株式会社勤務(株式会社ホンダセールスオペレーションジャパンに出向中) マネジメントコース 2016年卒業 (福岡県私立上智福岡中等高等学校卒業)

「お客様に喜ばれるサービスを自分で考え、この手で形にしたい」という思いから、現在は、モビリティメーカーの販売戦略を担う会社で新規サービスの企画推進に携わっています。仕事の原動力は、在学中に培った「自分の考えを持ち、それを相手に伝える力」です。商学部のゼミでは、産学連携プロジェクトとして新サービスの企画を経験。仲間と議論し、企業の方にアイデアを提案する中で厳しい意見をいただくこともありましたが、その経験が成長につながり、今の仕事にも役立っていると実感しています。日々の業務で企画を実行する力をさらに磨き、将来はマネジメントの立場で会社を牽引できるような存在になりたいです。

各コースで学べること



授業レポート

産業組織論A・B 海老名 剛 教授

アップルやアマゾン、どのように価格・開発戦略を決めているのでしょうか。近年、なぜ日本で電力自由化を推進したのでしょうか。企業戦略と政府の政策について、経済学的に考える授業です。

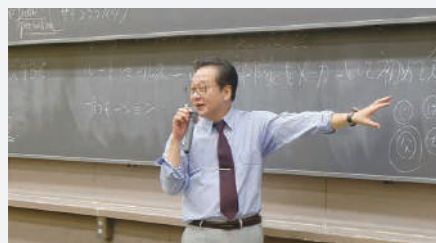
アプライド・エコノミクスコース

学部ガイド P.17

経済問題を解決する力を備えた人材を養成

アプライド・エコノミクスとは応用経済学。市場経済の現実を的確に捉え、市場で解決困難な経済諸問題について、経済学、経済史、統計学などの基礎的学習を応用して分析・考察し、国際的視点を含むマクロ的・ミクロ的対応策を考える能力を養います。高齢化や少子化、財政赤字の拡大といった国内問題を抱える一方で、グローバル化の進展による経済危機の発生、環境問題の深刻化といった世界規模の経済問題にも直面しています。このような問題の解決能力を有する人材の育成がこのコースの目的です。

目指す将来イメージ 国家公務員・地方公務員／データサイエンティスト／官庁エコノミスト、シンクタンク／金融業、マスコミ、総合商社などの民間企業／大学院進学・研究者



授業レポート

流通史A・B 若林 幸男 教授

アメリカや日本のマーケティング史、それもケースメソッドを使い、臨場感あふれる意思決定シミュレーションを展開しています。将来の無駄の少ない効率的な資源の配分を目指し、皆さんの生活を豊かにする方法を考察してみましょう。

マーケティングコース

学部ガイド P.19

「商」=交換・取引・移動の仕組みを究める

マーケティングとは、製品・サービスを売り手から買い手まで効率よく流通させるための経営技術のことです。本コースでは、「なぜ製品・サービスはそうように取引されるのか」という問いを理論的に考察できるように豊富なカリキュラムを用意しています。また、産業の発展や日常生活にヒトやモノの場所的移動は必須です。この現象は交通と呼ばれ、交通サービスの生産と消費を基礎とします。本コースでは、交通サービスを社会経済的な観点から学び、現実の課題を理論的、政策的に考えることも重視しています。

目指す将来イメージ 企業のマーケティング企画担当者／製造企業の新商品開発スタッフ／様々な組織での広告、イベントなどの立案者



授業レポート

金融取引論A・B 萩原 統宏 教授

企業の借入金や株式の価格がどのように決まるのかという、投資家・経営者両方にとって重要な問題について学ぶ良いスタートとなるよう、最近の話題も盛り込みつつ講義をしています。

ファイナンス&インシュアランスコース

学部ガイド P.21

金融と保険の仕組みから世界を知る

経済やビジネスにとって「お金」は「血液」とも言うべきものであり、この変動の時代に、最も改革を期待されているのがファイナンス(金融・証券)の分野です。さらに、企業や個人を取り巻くリスクは今後増大かつ複雑化するのには必至であり、リスクを管理するためのインシュアランス(保険)の役割が重要となります。本コースでは、国際ビジネス社会における共通言語としての金融・証券・保険の知識をマスターし、証券アナリストなどの資格取得に役立つように、斬新かつ体系的なカリキュラムを組んでいます。

目指す将来イメージ 金融・財務分野に関するコンサルティング業界／明治大学をはじめとする全国の金融・財務・保険理論を専攻する大学院／銀行・証券・保険などの金融業界／IT業界・メーカーなど事業会社の財務・経理のスペシャリスト



授業レポート

国際マーケティング論A・B 鈴木 仁里 専任講師

企業が世界の顧客に製品を届けることで顧客満足を実現するための仕組み創りを学びます。実現に向けていかなる戦略と能力が必要となるのか、このからくりをとくに解き明かしましょう。

グローバル・ビジネスコース

学部ガイド P.23

世界的な視野を持って経済を考える

いまや企業活動は世界の市場を抜きにしては考えられません。本コースでは、世界と日本との貿易や経済の関係を包括的に研究し、またその中で企業の活動や経営を世界的な視野に立って研究します。理論、ビジネスの両面からのアプローチを設定することにより、世界経済における日本の現状を理解して、将来の見通しを判断する能力を養います。また、異文化コミュニケーションやビジネス交渉などの企業活動も体系的に理解して、グローバル・ビジネスの場で活躍できる人材の養成を目的とします。

目指す将来イメージ 世界市場で国際ビジネスをリードするビジネスパーソン／異文化を深く理解し、様々な国籍の人たちをマネジメントできるグローバル企業の管理職／新しい発想やアイデアに基づき着実に経営資源を蓄積・活用できる起業家



授業レポート

経営組織論・経営労務論 佐藤 香織 准教授

組織構造と事業構造はどう関連するのか、また、組織内の意思決定やインセンティブの仕組みを変化させることで人々の行動がどう変わるのかなどについて、理論や事例に沿って解説します。



授業レポート

会計情報論A・B 名越 洋子 教授

企業の財務資料をもとに、将来の実務をイメージしやすいような講義を行っています。テーマは、複雑なファイナンスや排出権取引、会社の統合や再編です。就職活動での企業研究にも役立っており、何人かは会計士試験に早期合格しています。



授業レポート

クリエイティブ・マーケティング論A・B 水野 誠 教授

イノベーションに欠かせない、顧客の潜在的なニーズやウォンツをいかに理解するか、それに合致する製品やサービスをいかに創り出すか、最新のメディアやチャネルを用いて顧客との関係をいかに構築するかを学びます。

マネジメントコース

学部ガイド P.25

企業経営・企業活動を理論的・実証的に学ぶ

現代の資本主義社会において企業が果たす役割は非常に大きなものです。著しい国際化、情報化の中で、企業は顧客のニーズに的確に対応し、持続的に高い業績を上げていく必要があります。本コースでは、企業活動のありようについて多方面から学びます。戦略、組織、資源(人、物、金、情報)の調達・管理、そして、自然環境問題とも企業活動は密接な関係を持っています。企業の経営活動について、基礎から実践に至る体系的かつ包括的な知識を提供すると同時に、独自の視点を持った企業人、起業家の育成を目標としています。

目指す将来イメージ 世界中の様々な地域・分野の企業において事業の中核を担う経営人／自ら事業を立ち上げ会社を起こす起業家／国や地方の行政に携わり様々な政策を行う各種公務員／大学や研究所、シンクタンクにおける研究者

アカウンティングコース

学部ガイド P.27

世界共通の会計スキルを身につける

アカウンティング(Accounting=会計)は、ビジネス活動のルール。“ビジネス・コミュニケーションの言語”とも言われ、世界の共通語となっています。本コースでは、世界の投資家にビジネスを伝えるアカウンティングを多面的に分析・活用する知識を修得させ、会計プロフェッショナル(会計専門職)、経営者などビジネスリーダー、財務・経理・広報担当者の養成を目指しています。これまでに圧倒的多数の職業会計人(公認会計士、税理士)や企業を支える経理のスペシャリストを輩出してきた伝統と実績を有しています。

目指す将来イメージ 会計プロフェッショナル／コンサルティング会社／マスコミ関係／金融・証券／企業の経理・財務・IR(投資家向け広報)部門

クリエイティブ・ビジネスコース

学部ガイド P.29

時代の変化を先取りするイノベーターの養成

デジタル化やグローバル化が進む一方で、少子高齢化や気候変動など、社会が抱える問題も深刻になっています。こうした中、日本の産業構造や企業は大きなパラダイム転換を迫られており、そこには新たなビジネスチャンスがひそんでいます。本コースは、そのような社会変化を見据え、ビジネスの創造を目標に開設されたコースです。最新かつ斬新な科目群を設置し、実践的で現場密着型の少人数教育を実践することによって、イノベーションを構想し実践的に主導できる人材を育成します。

目指す将来イメージ イノベーションを推進する起業家・プロジェクトリーダー／既存の企業の事業変革を担うマネージャー／地方自治体で企業誘致、企業育成などを支援する専門家

TOPICS ビジネス・インサイト 大学での学びのモチベーション・原動力になる講座!!

「ビジネス・インサイト」講座は、企業のご協力のもとで行われるアクティブラーニング型実習・実践授業です。授業では、ビジネスの最前線で活躍される企業の方々による数回の講義の後、実際に現場で取り扱われるような課題が提示されます。企業により提示された実践的な課題に対して、5~6名が1組のグループに分かれて、主体的にテーマを決め、リサーチとディスカッションを重ね、解決策を生み出すというPBL(Project Based Learning:課題解決型学習法)形式で実施されます。

現地のフィールドワークにおけるインタビュー調査やアンケート調査、さらに図書館での資料収集など、グループメンバーが協力してリサーチとディスカッションを重ね、あたかも企業の企画部の社員になったつもりで、課題に対する解決策の提案を目指します。そしてこのグループワークの成果を、企業の方々の前で、中間発表、最終発表の2回にわたってプレゼンテーションします。中間発表では、企業の方々から様々な質問が投げかけられます。学生は、頂いた質問を

反映させ、チーム一丸となって、最終発表に向けて改善に取り組みます。さらにクラスで最も優れた最終発表を行ったグループは、連合駿台主催の「学生対抗プレゼンテーション大会」へ出場し、多くの聴衆の前で発表するという機会が与えられます。

このように「ビジネス・インサイト」講座は、グループがチームワークにより課題を見つけ解決法を提案するというアクティブラーニング授業です。講義では、高いコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力が養われます。また、ビジネスの現場を疑似体験することで、将来のキャリア選択のきっかけを掴むことができ、大学4年間で目指すべき自らの方向性が見つかり、より豊かで有意義なキャンパスライフにつながります。



最終発表に対する企業の方々からの講評の様子

▶「個」を強くするゼミナール教育

ゼミナール教育[ダブル・コア]

2年次から2つの系統のゼミを同時に履修することができます

商学部では2年次から、商学の専門科目を学ぶ「商学専門演習」と、深い教養を学ぶ「総合学際演習」からそれぞれ1演習を選択し、2つの演習(ゼミ)を同時履修することができます。2年次から4年次の3年間、異なる性質を持った2つのゼミを同時に受講することで、『知の2つのコア(Double Core)』が形成され、やがて融合し、新しい視点や価値観を生み出すことが期待されます。



2つの学びを両立させ、数字からビジネスの本質を読み解く。

アカウントニングコース3年 中村 傑さん (千葉県立我孫子高等学校卒業)

ダブル・コア制度で、商学専門知識である会計学と、スポーツビジネスに関する教養を同時に深めています。ビジネスの根幹を支える学問である会計を学ぶことで、企業活動の財務的な背景や数字の意味を読み解く力が養われました。さらに、スポーツビジネスの視点を持つことで、もともと関心のあったスポーツイベントやチーム経営を経済学的に捉えられるようになり、理論と実践の結びつきを実感しています。今後も表面的な情報だけでなく、社会やビジネスの背景にある構造まで読み解くように意識しながら、価値ある提案ができる人材を目指したいです。

総合学際演習 澤井ゼミナール
テーマ:スポーツビジネス、スポーツ政策

スポーツによる社会課題の解決を目指し
実践的な調査研究と
ビジネスイノベーションを学ぶ。

澤井 和彦 准教授



当ゼミでは毎年、インターカレッジの論文・プレゼン大会「スポーツ政策学生会議(Sport Policy for Japan)」に参加します。「スポーツによる社会課題の解決」や「スポーツビジネスによる社会イノベーション」をテーマに、調査研究、論文作成、プレゼンテーションを実施。スポーツによるビジネス開発や社会貢献といったテーマへの取り組みを通じて、社会や経済の様々な問題に関心を持ち、積極的に解決に挑む姿勢を身につけてほしいと期待しています。

商学専門演習 松原ゼミナール
テーマ:税とテクノロジー

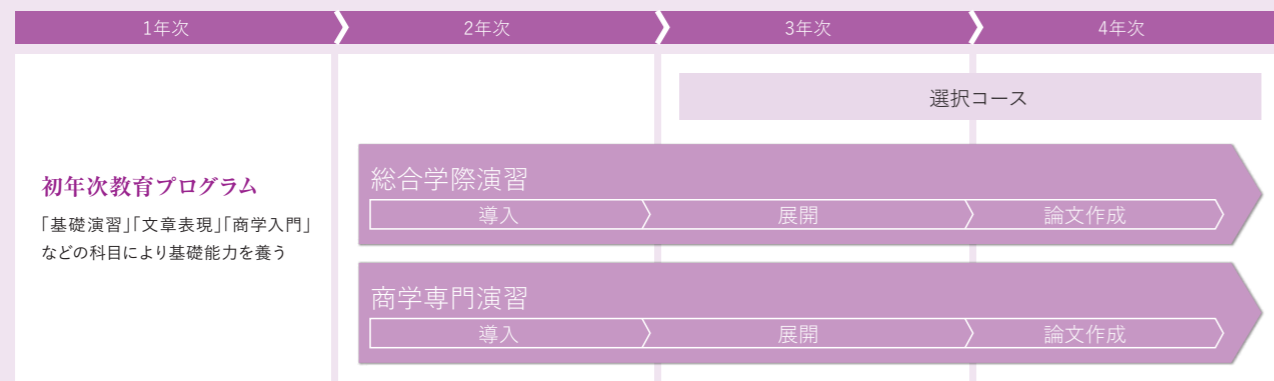
会計&税務専門職を目指す人を中心に
専門知識ビジネスマナー(含む英語力)や
ICTリテラシーを楽しく学ぶ。

松原 有里 教授



巷には、テクノロジーの進化が人間のこれまで行ってきた仕事を奪うという見方もありますが、インダストリー5.0と呼ばれるDXや生成AIの発展は私たちの労働の効率化・新規事業へ関心を向けるきっかけにもなります。当ゼミでは、20年後の皆さんがビジネスパーソンとして心身ともに豊かな生活を送れるよう、財務会計・税制を一通り学んだ上で、様々なゲスト講師のお話も聞きつつ賢く人生設計をしてほしいと願っています。

総合学際演習・商学専門演習ともに、3年間の演習教育において、2年次を導入、3年次を展開、そして4年次を論文作成の時期と位置づけています。



▶教員紹介・研究テーマ ※2026年4月1日現在 ※退職等により変更となる場合があります。

科目	氏名	研究テーマ
日本文化史	清水 克行	室町～戦国時代の社会史の研究
西洋文化史	北田 葉子	イタリア中近世史
日本語表現論	石出 靖雄	日本語表現の研究
日本近代文学	永井 善久	近現代日本文学・文化の研究
日本近代文学	西山 春文	日本近代詩歌研究
日本古典文学	中村 成里	歴史物語と和歌を中心とする日本古典文学
アジア史	鳥居 高	東南アジア諸国の政治経済分析
地理学	中川 秀一	農村の経済地理学
社会学	木村 至聖	文化遺産に関する社会学的研究
哲学	清水 真木	西洋哲学史
生命科学	浅賀 宏昭	バイオサイエンスに関する総合的研究
線型数学	鴨井 祐二	Gorenstein環の自由分解
心理学	佐々木 美加	社会心理学、アート関連コミュニティ
物理学	洞口 拓磨	物理学に基づいた分野横断的研究
環境科学	森永 由紀	モンゴルのアイラグ(発酵馬乳)の研究
英語	石黒 太郎	中世初期の英語とラテン語
英語	海田 皓介	英語の歴史・英語学・ゲルマン語文献学
英語	加藤 健太	映画研究
英語	小宮 彩加	ヴィクトリア朝英国の社会と文化
英語	今野 史昭	初期近代イギリス演劇
英語	ジェームズ・アンドリュース	現代イギリス文学、カナダ文学、アメリカ文学、短編小説論、ワイルドの言葉、ワイルドと観光
英語	高橋 三和子	初期近代イギリスの旅行記及び蒐集文化
英語	瀧口 美香	西洋美術史
英語	趙 泰昊	中世英文学と他者の表象
英語	中島 渉	近世イギリスの文学と思想
英語	ルフレクト、ブライアンG.	外国語教育・学習
ドイツ語	シッケハウス、トビアス	近現代ドイツ文学
ドイツ語	広沢 絵里子	精神分析と自伝、日独・日欧文化接触
ドイツ語	渡辺 徳美	ドイツ戦後文学、ドイツ語圏の芸術史
フランス語	浅間 哲平	フランス小説の歴史
フランス語	松原 陽子	フランス文学、フランス演劇、日仏文化
フランス語	安原 伸一朗	極限体験と文学
中国語	石井 知章	中国社会主義市場経済体制下の労働問題
中国語	水谷 尚子	近現代中国史、中国「少数民族」研究
中国語	三田 剛史	20世紀中国経済思想史
韓国語	李 英美	韓日法制史、法の継受関係と影響関係の研究
スペイン語	井関 睦美	中米古代史、物質文化論、災害文化
日本語	黒崎 典子	日本語教育における口頭表現指導法
体育・スポーツ実習	阿部 巧	身体活動と健康
体育・スポーツ実習	笹生 心太	スポーツ社会学/スポーツとナショナリズム
体育・スポーツ実習	澤井 和彦	スポーツマネジメント/スポーツ政策
経済史	井上 達樹	近代日本における人的資本と経済発展
商業総論	竹村 正明	お金儲けは、なぜむずかしいか
簿記学	葛 曉鵬	利益計算に係る現代会計基準の変化の意味
統計学	小林 弦矢	ベイズ統計学
貿易総論	大津 健登	国際貿易と経済発展
ビジネス・インサイト	高野 公三子	ファッション文化論・「定点観測」論と実践
ビジネス・インサイト	山崎 京子	個人と組織の不適合、人事機能、キャリア
経済政策論	山田 知明	経済格差の動学的一般均衡分析
公共経済学/財政学	畑 鋭矢	租税・歳入構造の国際比較
産業組織論	海老名 剛	企業行動と競争政策
国際経済学	高浜 光信	通貨同盟、国際通貨協力に関する経済分析
計量経済学	水野 勝之	経済変動モデルの実証分析
ゲーム理論	阿武 秀和	資源配分ルールの公理的探究
商業経営論	菊池 一夫	オムニチャネル小売業、ポップアップ・ストア、D2C

科目	氏名	研究テーマ
マーケティング管理論	加藤 拓巳	商品の価値づくりとブランドマネジメント
市場調査論	福田 康典	市場における情報の生成と伝播
広告論	竹内 亮介	広告と消費者行動
商品学	高橋 昭夫	インターナル・マーケティング
流通史	若林 幸男	マーケティング史
消費者行動論	佐藤 平国	消費者行動研究のためのデータ分析
流通システム論	原 頼利	流通における組織間関係に関する研究
競争戦略論	山崎 喜代宏	製造企業の持続的競争優位構築の論理的探究
交通論	藤井 秀登	観光交通に関する歴史的・理論的研究
物的流通論	水谷 淳	交通運輸産業における市場構造分析
国際交通論	町田 一兵	環太平洋を中心とする国際交通・物流
都市・地域交通論	恩田 睦	都市・地域交通論、交通史、鉄道史
外国専門書講読	姜 瑩	顧客エンゲージメントに関する研究
金融論	小原 英隆	家計の金融論とFP実務【NO試験対策】
金融論	土屋 陽一	経済学における情報と期待形成
金融機関論	伊藤 隆康	中央銀行と金融市場、イスラム金融
国際金融論	太田 隆	大規模言語モデルを利用した経済分析
金融取引論	萩原 統宏	格付情報の最適性に関する考察
証券市場論	野田 顕彦	計量ファイナンス分析
機関投資家論	三和 裕美子	機関投資家とコーポレートガバナンス、ESG投資
保険学	中林 真理子	保険会社の企業倫理と消費者保護
損害保険論	藤井 陽一朗	意思決定分析の基礎と保険論への応用
保険リスクマネジメント論	浅井 義裕	企業と保険、中小企業金融、金融教育
貿易論	所 康弘	国家と貿易(国際貿易秩序を巡る国家間対立)
国際マーケティング論	鈴木 仁里	多国籍企業の国際マーケティングと製品開発
世界経済論	小林 尚朗	新しい世界経済秩序と東アジア地域協力
貿易政策論	深澤 光樹	国際貿易と途上国の経済発展・社会開発の研究
バーバル・ビジネス英語	塩澤 恵理	国際ビジネスコミュニケーション論・国際貿易
外国専門書講読	李 雨テイ	グローバル・バリューチェーン
経営戦略論	西 剛広	コーポレート・ガバナンスとイノベーション
生産管理論	富野 貴弘	ものづくり企業の競争力に関する研究
情報管理論	山下 洋史	経営品質科学に関する研究
経営情報システム論	村田 潔	組織情報倫理学
経営組織論/経営労務論	佐藤 香織	内部労働市場、労働者のメンタルヘルス
労使関係論	久保 隆光	働き方の「自己決定」について
経営管理論/企業論	會澤 綾子	企業の持続的なマネジメント
経営哲学/経営倫理	出見 世 信之	企業倫理・CSRおよび企業統治に関する国際比較研究
財務会計論	姚 俊	ウェルビーイングとサステナビリティの会計
原価計算論	千葉 修身	会計言語機能論に基づく現代会計制度の分析
意思決定会計論	前田 陽	日本企業における経営と管理会計
業績管理会計論	小田 康治	戦略管理会計に関する実践的・文献学的研究
監査論	加藤 達彦	企業や公的組織に対する監査に関する研究
経営分析論	王 志	企業の財務業績を向上させるための管理会計
税務会計論	神田 良介	税務会計学の研究対象と研究方法とについて
国際会計論	山本 昌弘	大企業・中小企業のM&Aに関する理論的・実証的・制度的研究
会計情報論	名越 洋子	会計基準の設定過程と事例研究
企業評価論	奈良 沙織	企業のディスクロージャーとアナリスト
租税法	松原 有里	税とテクノロジー
クリエイティブ・マーケティング論	水野 誠	消費者行動における複雑性と創造性
ファッション・ビジネス論	小野瀬 慶子	現代日本の「つくる実践」と未来社会創造
特別テーマ実践科目	ハディ ハーニ	中東、特にパレスチナの民族主義や宗教
地域活性化システム論	松尾 隆策	道の駅を拠点とした地域活性化に関する研究

政治経済学部

School of Political Science and Economics

実学と教養を身につけ、
広い世界に羽ばたく

MESSAGE

幅広い教養と専門性を礎に、
複雑な社会を読み解く力を育成

政治経済学部では、「教養のある専門人の育成」を重視しています。現代社会が抱える課題は非常に複雑で、要因を見つけ出すことは簡単ではありません。だからこそ、専門知識を深めるだけでなく、学科の枠を越えて多様な科目を学び、多角的に物事を捉える力と豊かな教養を身につけていきます。少人数ゼミでは、教員や仲間との対話を通じて自ら考える力を養い、幅広い学びや人とのかかわりの中で、自分らしい考えを形成します。さらに、グローバルな視野と情報社会への対応力を高めるため、留学制度や英語実践力特別強化(ACE)プログラム、AI・データサイエンス教育を積極的に展開。学生一人ひとりの目標に応じた支援体制を整え、それぞれが自身の可能性を広げて未来へと踏み出せるよう力強く後押しします。

学部長 小野島 真

PROFILE

明治大学大学院政治経済学研究科博士後期課程を修了し、博士(経済学)の学位を取得。その後、名古屋学院大学経済学部専任講師、明治大学政治経済学部准教授、政治経済学部教授を経て現職。副教務部長、副学長(入試制度)などを歴任。研究テーマは「国際課税」および「北欧諸国における行財政改革」。財政学・租税論などの講義を担当。

社会を動かす思考力

明治大学政治経済学部の強み

現代社会の課題に立ち向かう
教養豊かな専門人を育成する

1 少人数の演習形式を中心としたカリキュラム ゼミ指導型コース制

3・4年次の選択科目を4コース計12の科目パッケージに分類。所属ゼミナールでの研究に合ったコース・パッケージを選択する「ゼミ指導型コース制」で体系的に学びます。



2 一般的知識と広い教養を修得 多彩なリベラルアーツ科目

現代の諸問題にアプローチする「基礎体力」を養うため、人文科学・社会科学・自然科学・総合の各科目群からなる基礎科目をはじめ、多彩なリベラルアーツ科目を設置しています。



3 各分野の最先端にいる人々から学ぶ 応用科目としての「総合講座科目」

オムニバス形式で分野横断型の学びを展開する総合講座を設置。3・4年次では、現代社会が直面する多様な課題について、学外からその分野の最前線を知る講師を招いて講義を行います。



4 世界で通用する力を身につける グローバルキャリア形成(GCD)プログラム

実践的な語学力・コミュニケーション能力に加え、国際社会に関する基礎的知識を習得。柔軟な思考力・洞察力および優れた問題解決力を持ち、世界を舞台に最前線で活躍できる人材を育成します。



5 明治大学のグローバル人材育成を牽引! グローバル教育・留学プログラム

海外大学と連携し、明治大学と留学先大学両方の学士号を取得できる留学プログラムを実施。学生のニーズに応える学内プログラムや短期・中長期留学制度も充実しています。



国際社会をリードする人材になるための「基礎体力」と「実践力」を育む

情報化や国際化が進む現代において、多様で複雑な問題を解決する能力を備え、国際社会をリードできる人材を育成するカリキュラムを設置しています。1・2年次には、幅広い知識と教養を身につけるリベラルアーツ科目を履修し、学びの土台となる「基礎体力」をつけます。さらに、3学科の基本科目、コース別応用科目、ゼミナールを通して、専門分野の学修を段階的かつ体系的に深めていきます。少人数制のゼミナールでは、活発な研究発表やディベートを通じて社会で求められる「実践力」を磨きます。

▶ 学部独自の学生支援・助成制度

TOEIC®IPテスト、TOEFL ITP®テストの開催 詳細は学部ガイドp.27へ ▶

TOEIC®IPテスト(オンライン形式含む)およびTOEFL ITP®テストを年間複数回、学内で主催しており、希望者は無料で受験することができます。

各種検定試験の受験料助成、リベティアカデミー講座等の受講料助成 詳細は学部ガイドp.27へ ▶

所定の語学検定などの外部検定試験や学内の有料講座について、学部が定める条件に基づき受験料の助成を行っています。

就職支援イベント、キャリア育成講座等の開催 詳細は学部ガイドp.27へ ▶

各学年を対象に、学生の就職活動やキャリア形成をサポートする学部独自のイベントを開催しています。 他

▶ 学部主催の留学制度

留学プログラム 詳細は学部ガイドp.13へ ▶

- ・短期留学プログラム
- ・学部間協定留学プログラム

協定校

シーナカリンウィロート大学／北京大学／国立台湾大学／延世大学／南洋理工大学／ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学／ペトラクリスチャン大学／ロッテルダム応用科学大学／東フィンランド大学／ノイウルム応用科学大学 他

Curriculum	4年間のカリキュラム			
	1年次	2年次	3年次	4年次
学びの特徴	1・2年次は、専門性を支える幅広い教養を重視しつつ、早い段階から政治・経済の専門分野に触れる学びが特徴です。基礎科目や基本科目、外国語科目を通して、思考力や分析力の土台を養成。少人数の教養演習や、教員が分野横断的に講義する総合講座により、学問への関心を広げながら、自らの問題意識を育てていきます。		3・4年次では、応用科目や専門演習を中心に、関心分野を深く掘り下げる学びへと進みます。体系化されたコースや科目パッケージを参考に、ゼミ担当教員の指導のもと主体的に履修を設計。少人数制の専門演習では研究成果を卒業論文としてまとめ、専門知識に加え、課題設定力や発信力を磨きます。	
基礎科目	人文科学科目群／社会科学科目群／自然科学科目群／総合科目群		3年次でゼミナールまたはコースを選択	
外国語科目	英語／ドイツ語／フランス語／中国語／スペイン語／日本語(外国人留学生のみ)			
健康・運動科学科目	運動学演習／生涯スポーツ演習／健康・運動科学			
基本科目	3学科共通基本科目(留学準備・就業力育成など)／学科必修科目 学科関係科目(政治学科／経済学科／政策学科)			
応用科目			<div style="text-align: center;"> ゼミナール 専門演習<卒業論文> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">政治学・社会学コース</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">経済学コース</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">政策学コース</div> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px;">国際社会・文化論コース</div> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">学科関係科目(政治学科／経済学科／政策学科)／3学科共通専門科目／専門演習／専門研究／総合講座／特殊講義</p>	
情報科目	ICT統計解析／ICTデータベース／ICT画像編集／ICT動画編集／ICT音楽編集／ICTプログラミング／		ICT WEBページ作成／ICT eラーニング／ICTプレゼンテーション	
資格課程科目	日本史概論／東洋史概論／西洋史概論／地誌学概論／人文地理学概論／自然地理学概論／法律学概論／		倫理学概論	
グローバル人材を育成する全学部共通科目	グローバル人材育成プログラム			

注目の学び



英語実践力特別強化(ACE)プログラム

ACEとは“Advanced Communicative English”の略で、通常の英語クラスとは別に設けられた政治経済学部独自のプログラムです。グローバル社会で通用する実践的な語学力を強化するための少人数の授業で、学生の主体的な学びを促す多様なアクティビティを取り入れています。ディスカッションやプレゼンテーションスキルの強化はもちろん、TOEIC®やTOEFL®などの資格試験対策や留学準備、ニュースメディア等を活用して社会事情や文化的背景を学ぶ授業まで、幅広い内容の科目を数多く設置しています。

Student Message

学生からのメッセージ



多角的な視点と探究心で挑む、政治経済の世界

鳥原 悠太郎さん 経済学科4年 北海道私立札幌光星高等学校卒業

小学生の頃から経済や社会の仕組みに興味があり、進学先として政治経済学部を選択。入学後は、幅広い分野を学ぶ中で多くの留学生と交流し、多様な価値観に触れることで、さらに好奇心が広がりました。教員と近い距離で意見を交わしながら学べる点も、この学部の大きな魅力。国際金融論のゼミでは、ファイナンス理論や時事問題について議論し、異なる意見を受け止めつつ自分の考えを整理する力を鍛えています。特に、米大統領選や世界のインフレ動向について留学生と話し合った経験は、様々な視点から物事を捉える重要性を実感する機会になりました。今後も、探究心を生かし、世界や金融を読み解くプロフェッショナルを目指します。

Alumni Message

卒業生からのメッセージ



まちの魅力を上げる商業施設づくりを目指して

鳥田 有希子さん 株式会社東急モルズデベロップメント勤務
地域行政学科® 2021年卒業 (東京都私立クラーク記念国際高等学校卒業)

大学で地域社会の課題を学んだことや、地方への旅行を通じて地域活性化に関心を持つように。まちに活気を生む商業施設に魅力を感じ、商業施設業界を志望しました。現在は、幅広い世代の暮らしに寄り添う施設づくりに携わり、日々やりがいを感じています。在学中は短期留学に挑戦し、苦手だった英語に向き合う中で、自己を磨く姿勢や挑戦心を身につけました。また、民法を学んだことは、資格取得など業務に直接役立っています。今後は、デジタル化が進む時代だからこそ、人とのつながりを感じられる場としての商業施設の価値を高めたいと考えています。そして、多くの人の拠りどころとなる空間づくりに挑戦していきます。

※2026年度より地域行政学科の募集を停止し、政策学科の募集を開始しました。

各学科で学べること



授業レポート

国家論・現代国家分析

西川 伸一 教授

国家論(春学期)では、現代政治学の諸潮流が「国家」をどう論じているかをみていきます。現代国家分析(秋学期)では、現代国家の実体分析として日本の裁判所を取り上げます。いずれも国家権力への冷静な見方の会得を心がけます。



授業レポート

ミクロ経済学・マクロ経済学

平口 良司 教授

ミクロ経済学では、個々の消費者や企業の経済活動を分析します。一方マクロ経済学では、国全体の経済の仕組み、たとえば物価の決まり方などを学びます。両科目は密接にかかわっており、共に経済学の必修科目となっています。



授業レポート

自治体経営論

牛山 久仁彦 教授

都道府県や市町村などの自治体は、住民生活に欠かせない行政サービスを提供するものであり、住民の安心・安全を保障する政治の主体です。

公選の首長と議員もあり、住民の直接参加の制度が存在する「民主主義の学校」でもあります。

地方分権の時代にふさわしい自治体経営とはいかなるものなのか、皆さんと考えていきたいと思ひます。

政治学科

学部ガイド P.19

自分を取り巻く世界と政治とのつながりを見出す力を

政治学は、グローバルな問題から身の周りの出来事まで、様々な事象とかかわりの深い学問です。そのため、本学科では現代政治、国際政治、政治史、政治思想、社会学などに関する科目を豊富に提供します。科目には英語で開講されるものもあり、これらの多様な科目を学習して広い視野で政治をとらえる力を養います。政治経済学部では在籍学科による制限なくゼミに所属できるため、経済学や政策学の知識を持った学生と一緒に学べる機会があることも特長です。専門的かつ多様な領域をカバーする教員・科目、ゼミ活動、仲間との交流を通じて興味・関心の幅が広がれば、あらゆる事象と政治との結びつきに気付けるようになるはずです。政治を、より身近なものとしてとらえられるようになるでしょう。

目指す

国家・地方公務員／大企業および中小企業／ジャーナリスト／教員／

将来イメージ

国際機関職員／国会議員・地方議会議員／ベンチャー起業家／大学院進学

経済学科

学部ガイド P.21

時代の要請に沿った「最適な選択肢」を選び取る力を養う

限りある資源を有効活用し、その成果をどう分配するのか。複数の「選択」を経て、豊かな暮らしを実現する最適解を見出すのが経済学です。時代のニーズは刻々と変化しており、経済学を扱う私たちが最適な選択をするには多角的な視点を養わなければなりません。そのため、本学科では基礎となるミクロ経済学とマクロ経済学、経済の成り立ちを学ぶ経済史、経済を定量的に理解するための統計的手法、経済政策など様々な角度から経済学を学びます。また、国際化の進む現代では的確な自己主張や自己表現ができる人材が求められます。そうした人材となるために、本学科で得た多面的思考と、最適な選択肢を選ぶ力が役に立つはずです。

目指す

国家・地方公務員／大企業および中小企業／公認会計士・税理士／ジャーナリスト／エコノミスト・証券アナリスト／教員／国際機関職員／

将来イメージ

国会議員・地方議会議員／ベンチャー起業家／大学院進学

政策学科

学部ガイド P.23

課題をつかみ、政策を構想し、実践力でより良い社会を

現代社会では、地域・国家・国際レベルで多様な課題が生じています。政策学科では、政治学・経済学・社会学を横断的に学び、データ分析やフィールドワークを活用しながら、課題の本質を見極め、具体的な解決策を導きます。歴史や思想を踏まえた多角的な視点を持ち、企画・立案から実行までを担う実践的な学びが特長です。理論と現場を結びつけ、社会の変化に対応しながら、新たな価値を創造することを目指します。さらに、都市計画や環境問題、少子高齢化といった多様なテーマに取り組み、社会に貢献できる政策のあり方を追求します。学びを通じて、現実の課題に向き合い、より良い社会を築くための視点と方法を身につけていきます。

目指す

国家・地方公務員・国際機関などの国内外の公的機関／シンクタンク／

将来イメージ

コンサルティングファーム／鉄道・航空／電力・エネルギー／金融／都市開発・不動産／

商社／メーカー／IT・通信／観光／スタートアップ起業家／大学院進学

▶ 教員紹介・研究テーマ

※2026年4月1日現在 ※退職等により変更となる場合があります。

政治学科

氏名	研究テーマ
相原 耕作	日本政治思想史、江戸時代の言語研究と政治思想の関係
アベンヘムディヤンセラゲ、ニロス C.	国際政治、南アジア政治、グローバル・ガバナンス
荒木 淳子	主体的なキャリア形成のあり方とそれを支える組織・社会に関する研究
碓 陽子	食べることと身体、フェミニスト人類学とエスノグラフィ
井田 正道	現代日本における世論および選挙に関する実証的研究
伊藤 剛	国際政治理論、アメリカ外交、アジア太平洋地域国際関係
重田 園江	ミシェル・フーコー研究、社会連帯の思想と歴史、社会契約論
海後 宗男	ICTやSNSが社会参画や政治、合意形成に与える影響/メディア・コミュニケーション論
加藤 彰彦	家族・人口・社会構造の国際的ならびに歴史的比較研究
加藤 言人	民主主義下の世論形成、代表メカニズムに関する数理・実証的検討
川嶋 周一	独仏関係史、欧州統合史、EU研究
木寺 元	現代日本政治分析、地方政治論
小西 徳彦	足尾鉾毒事件、三木武夫、政治倫理の歴史と現状
税所 真也	現代社会学、家族・ジェンダー、量的/質的データ分析法
鎌 家新	社会福祉政策および社会変動に関する日中比較研究
杉田 弘毅	米国外交、地政学、中東研究、メディアと国際政治
高山 裕二	デモクラシーの国際比較思想史、政治教育
外池 力	デモクラシー論、人権論、民主化論
西川 伸一	日本の裁判所行政を人事の観点から研究する
比嘉 理麻	米軍基地反対運動と自然環境保護運動に関するアナキズム人類学
樋口 収	社会的判断におけるバイアス
ブルチャー、ミヒャエル F.	日本近代政治思想と「認識」論、政治概念史と翻訳思想
ベナザリオ・ベルルッキ、アントニオ	先進民主主義国における政治行動の比較
堀金 由美	開発(経済発展)と政治のかかわりを国際比較を通して考えること
水野 剛也	アメリカ・ジャーナリズム史、日系アメリカ人史、漫画と政治家
水戸部 由枝	ドイツ近現代史、セキュリティと政治の関係性
宮本 雅也	社会主義論、平等主義的リベラリズムとフェミニズムの架橋

経済学科

氏名	研究テーマ
赤津 正彦	経済と環境との関係を中心とした近代イギリス経済史研究
石山 幸彦	戦後フランス経済史、ヨーロッパ統合史
井上 朋紀	一般均衡理論、協力ゲーム理論
大高 研道	非営利・協同組織の研究、社会的排除問題と社会的企業
大森 正之	環境経済理論の形成と発展、環境政策論
奥山 誠	世界恐慌期の経済政策思想
小野島 真	国際課税および北欧諸国における行政改革
金子 隆一	人口変動(高齢化等)のライフコース的解明
鎌田 健司	地域人口分析、地域出生力分析、人口移動と結婚・出生行動の分析
倉地 真太郎	北欧諸国における福祉国家財政の形成と変容
小西 淳文	開発経済学、持続可能な開発・環境との調和
小早川 周司	デジタル通貨と貨幣の将来像、デジタル社会における金融インフラ
小林 和司	計量経済学における分析方法
下斗米 秀之	アメリカ経済史における移民および技術移転の研究
末永 啓一郎	開発経済学、経済発展論、キャッチアップ、イノベーション
杉本 隆司	西欧近代の実証主義・産業主義の社会思想
関根 篤史	マクロ金融の時系列分析
高橋 聡	資本主義経済のグローバル化
高橋 信勝	古典派経済学・家事経済学形成史論
武田 巧	制度と制度変化の経済学
田中 茉莉子	国際通貨、金融市場、リカレント教育に関するマクロ経済分析
中島 満大	歴史からみた人口と家族の持続と変容
永原 裕一	時系列解析の研究および金融・証券市場の実証研究
原 ひろみ	日本の労働市場の機能とジェンダー経済格差、労働政策の効果分析
日向 祥子	企業・組織による課題の発見、対応と経済社会の変化
平口 良司	経済成長論
廣松 悟	ポリティカルエコノミーと空間形成、フロンティア空間の政治経済学
星野 泉	少子高齢社会の税財政を国際比較の観点から明らかにする
盛本 圭一	法人税のマクロ経済分析、大災害と資産価格・経済政策
八木 尚志	産業構造変化、所得分配、マクロ経済分析に関する研究

政策学科

氏名	研究テーマ
飯田 泰之	地域経済論・産業経済論とマクロ経済学の融合
牛山 久仁彦	地方分権改革に伴う自治体行政改革の課題と展望
奥山 雅之	地域産業のグローバル化(グローバルビジネス)、地域政策に関する研究
加藤 久和	公共経済・マクロ経済等の実証分析、人口減少時代の財政社会保障
齋藤 雅己	グローバル経済の分析と経済政策
柴田 有祐	産業政策、貿易と経済成長
西村 亦	民営化と「行政の守備範囲」の変動に関する研究、危機管理行政
野澤 千絵	人口減少時代でも持続可能な都市政策・生活圏の再生
藤永 修一	グローバリゼーション、米国の通商政策
宮崎 イキサン	国際貿易金融、国際貿易の決済・資金調達や決済リスクの実証分析
森下 正	ベンチャー・中小企業の経営実態、経営者行動の実証的研究

教養文化系

氏名	研究テーマ
飯嶋 曜子	人文地理学、EU地域政策、地域連携
池田 功	心の病の文化的研究、社会病理研究、石川啄木研究
石山 徳子	政治・人文地理学、地域研究(アメリカ合衆国)
稲葉 肇	科学史、物理学史
植田 麦	古代日本の神話テキストを中心とした文学的・語学的研究
内田 光史	現代ラテンアメリカ文学、音楽および美術
海野 素央	トランプ米大統領のリーダーシップスタイルとコミュニケーションスタイル
遠藤 直樹	代数学(可換環論)
春日井 淳夫	生活習慣病の予防と運動、スポーツ選手の体力に関する研究
兼子 歩	アメリカ社会文化史、ジェンダー研究
飯屋 浩子	スペイン語圏の文学・演劇史
後藤 光将	スポーツ史、スポーツ人類学、オリンピック教育
小林 広直	英文学(ジェイムズ・ジョイスを中心としたアイルランド文学)
佐久間 寛	経済人類学、アフリカ地域研究、負債論、仏語圏アフリカの文化運動研究
佐々木 菜緒	ケベック文学、フランス語圏文学
佐原 徹哉	ジェノサイドの比較研究、東欧・中東地域研究、紛争研究
柴崎 文一	応用倫理学および環境思想の研究
嶋田 直哉	日本近代文学、日本現代演劇、国語科教育法
ジョージジョニー E.	社会言語学、人類言語学、日本手話談話
高峰 修	体育・スポーツ社会学、ジェンダー研究
武田 和久	ラテンアメリカ史、キリスト教布教史、先住民研究
武田 祐平	運動生理学(分子筋生理学)
田村 久男	ドイツ語圏文学(主に19世紀スイス文学)
デヴェアローナヴェリア L.	外国語教育、日本語教育、自学習習、教材開発、学習ストラテジー
富澤 成實	近代日本の文化・文学、志賀直哉の研究
虎岩 直子	イギリス諸島の政治と文化
永川 聡	18世紀末のドイツ文学
中村 幸一	比較言語学・台湾文化
ネルソン・リンジー R.	日本映画、日本文化
羽根 次郎	東アジア近現代史
バスケット、ルアン K.	社会言語学、ゲーム業界の歴史、ゲーム研究
廣部 泉	アメリカの歴史と文化、日米関係
本間 次彦	前近代中国思想、中華ナショナリズムの起源と中国思想史の誕生
前田 更子	フランス近現代史、比較教育社会史
丸川 哲史	東アジア(へ)の思想伝播、社会運動の理論と実践、芸術・文化の形成と翻訳
森本 陽子	Mind, Brain, and Education(神経科学、教育心理学、教育学)の知見と演劇的アプローチを応用した、自律的語学学習法、教授法、プレゼンスキル指導法
山岸 智子	イラン地域研究、イスラームとグローバル化
ヨーク・ジェームズ	教育におけるゲームの導入と活用、ゲーム学習、教育学、ゲーム研究

経営学部

School of Business Administration

「グローバル経営人材」
「価値創造人材」を育成する

MESSAGE

論理的思考と課題発見力を育み
明日の社会を創り出す「強い個」へ

経営学は、営利・非営利を問わず「組織」を動かす仕組みを学ぶ学問です。複雑な課題が山積する現代において、そうした社会活動の基盤を研究することは、未来を切り拓くための武器になるでしょう。1953年、創設者・佐々木吉郎の「教育は今日に役立つ人間ではなく、明日に役立つ人間をつくるのだ」という信念のもと誕生した経営学部。広範な教養科目と経営学、会計学、公共経営学に関する専門科目、多彩な留学プログラムや社会の現場を学ぶ実践的なプログラムを用意して、未知の課題に挑み、新たな価値を生み出す「価値創造人材」と、世界を舞台に活躍する「グローバル経営人材」を育成しています。これからも、未来を創る主体として前進し続ける私たちと、一緒に「明日」を創ってみませんか。

学部長 原田 将

PROFILE

1998年佐賀大学経済学部卒業。明治大学大学院経営学研究科博士後期課程修了。博士(経営学)。静岡産業大学専任講師、准教授、兵庫県立大学経営学部(現国際商経学部)准教授、教授、英ヨーク大学CEGBI客員研究員、明治大学経営学部専任准教授を経て、2018年より専任教授。研究テーマは、ブランド志向組織と組織成果の関係。主要担当科目は「マーケティング・マネジメント論」。

ともに、明日を拓く

明治大学経営学部の強み

ビジネスリーダーを目指す
あなたの「思い」に応える学部

1 学ぶ目的を明確にする
2年次からの3学科制度



2 英語スキルと専門知識の
融合を目指す
グローバル経営人材
育成トラック「GREAT」



3 グローバル社会の扉を開く
経営学部独自の
短期・長期留学プログラム



4 公認会計士や税理士
などを目指す
高度職業会計人
養成トラック「CAP」



5 DX時代に即した
教育プログラム
デジタル経営人材
開発トラック「DIGIT」



6 教室外での体験型実践教育
「フィールドスタディ」



7 海外で社会貢献活動を体験
「グローバル・サービスマン」



8 企業の現場を意識する
1年次からのキャリア教育



学部一括入試を経て、2年次から学科に所属 あなたの目的や想いを実現するカリキュラム

1年次は経営の基礎を幅広く学び、2年次から経営学科、会計学科、公共経営学科の3つに分かれて学びます。

経営学科では主として営利企業のマネジメントについて、会計学科では会社の利害関係者に役立つ会計情報について、そして公共経営学科では行政組織や非営利組織のマネジメントやスポーツマネジメントについて学びます。1年次の学びを踏まえて学科を選択することで、自分の興味や関心に合った専門領域を体系的に学ぶことができます。このように経営学部では、各学科がそれぞれの特色を生かした魅力あるカリキュラムを提供しています。

Curriculum	4年間のカリキュラム			
	1年次	2年次	3年次	4年次
学びの特徴	「教養科目」「外国語科目」「学部必修科目」を通じて幅広い視野と基礎的素養を身につけます。3つの人材育成トラックは、4年間を通じた特別なプログラムで1年次から参加できます。	経営学科、会計学科、公共経営学科のいずれかに所属し、各専門領域の基礎理論を修得します。1年次にどの専門領域で活躍したいかをじっくり検討してから学科を選ぶことができるカリキュラムです。	2年次に学んだ専門分野の基礎知識を活かし、所属学科の専門領域の理解をさらに深めます。基礎科目ではより高度な科目を履修できるようになり、演習での専門性も深くなります。	専門分野における高度な知識を修得し、大学生活の学びの集大成を確立します。また、資格取得や大学院進学、就職など、将来のキャリアパスに向けた最終的な準備を行います。
学部必修科目	経営総論 / 経営学 / 会計学 / 公共経営学 / 近代経済学	所属学科	学科専門科目	経営学科(経営戦略論、経営組織論) / 会計学科(管理会計総論、財務会計総論) / 公共経営学科(行政経営論、公共マーケティング論)
演習科目(ゼミナール)	教養演習 / 外国語教養演習 / 基礎専門演習	演習Ⅰ	演習Ⅱ	演習Ⅲ
教養科目	言語思想 / 宗教思想 / 統計学 / 現代社会とスポーツ / 社会学 / 外国文学 / 言語表現論 /	地理学 / 哲学 / 日本文学 / 手話コミュニケーション		
基礎専門科目	簿記論 / 経営史 / 経営心理学 / マーケティング基礎論 / ビジネス法 / ビジネス・エコノミクス /	Internet Business / 労働法 / 税法		
外国語科目(必修・選択)	英語 / ドイツ語 / フランス語 / 中国語 / ロシア語 / 韓国語 / 日本語 / TOEFL Reading / Listening /	Speaking / Writing / Speech and Debate / 英語スペシャルスタディ		
体育実技科目	体育実技 / 選択体育実技 / 学外選択体育実技			
実習関連科目	短期留学 / 海外での社会奉仕活動 / フィールドスタディ / DIGIT / リサーチ・リテラシー			
ICTリテラシー科目	ICTベーシック / ICTデータベース / ICTプログラミング / ICTプレゼンテーション / ICT統計解析			

▶ 学部独自の学生支援・助成制度

イベント

詳細は学部ガイドp.08へ ▶

- ・英語プレゼンテーション大会
- ・英語ライティングコンテスト
- ・i-meeting(アイ・ミーティング)
- ・経営学部スポーツ大会
- ・ゼミナール協議会主催プレゼンテーション大会

助成制度

詳細は学部ガイドp.33へ ▶

- ・検定料助成(外国語、簿記、ビジネス系、DIGIT関連)
- ・学内三研究所経費助成
- ・留学制度(IBP、ISIBM)旅費助成
- ・フィールドスタディ・地域活性化論旅費助成
- ・グローバル・サービスラーニング旅費助成

▶ 学部主催の留学制度

留学プログラム

詳細は学部ガイドp.13〜へ ▶

- ・短期留学プログラム
- ・デュアルディグリー・プログラム
- ・学部間協定留学(長期)

協定校

詳細は学部ガイドp.16へ ▶

- ・ヴィクトリア大学(カナダ) / ノースカロライナ大学シャーロット校(アメリカ) / IE大学(スペイン) / カーディフ大学(イギリス) / ソウル国立大学(韓国) 等

注目の学び



講義だけじゃない！
「現場を体感」し、
「現場で学ぶ」体験型授業

フィールドスタディは、教室外でのフィールドワーク(現地調査)を通じた資料の収集と、それに基づくレポートの作成やプレゼンテーションの実施を核とする実習科目です。まず教員と一緒に課題に対する問題意識を深め、事前学習で学生自らが調査対象について調べ、「フィールドワーク」で現地に赴き資料収集を行います。「事後学習」では、それらを分析し、独自の考察を加えたレポート・プレゼンテーションを作成します。調査対象は、ローカルからグローバルまで、企業、自治体、NPO法人、特定地域の住民など、科目により様々です。

Student Message

学生からのメッセージ



肌で感じた地域格差。授業やゼミの学びを深め、解消に貢献したい

中村 実咲さん 経営学科3年 東京都私立青稜高等学校卒業

入学の決め手は、2年次から学科選択ができるカリキュラムでした。当初は学びたい分野が曖昧だったため、1年次に基礎を固めてから専門領域を決め、将来の道を広げられる4年間はとても魅力的でした。現在は公共経営学系のゼミで、都市と地方の格差や地域行政を学んでいます。沖縄出身の私にとって、東京での生活は地域とのギャップを肌で感じる毎日でした。実際に感じたことについて詳しく学びたいと思ったのが、現在のゼミを選択した理由です。将来は、沖縄で生活してきた経験や、授業・ゼミで得た知識を活かし、地域の持つ魅力を発信し、皆が地元を誇りを持てるような地域づくりに貢献したいと考えています。

Alumni Message

卒業生からのメッセージ



「伝え方」で価値が変わる。ゼミの学びを今に活かす

斎藤 舞さん 株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ勤務
経営学科 2024年卒業 (東京都私立品川女子学院高等部卒業)

原田ゼミでは、日本企業のマーケティング課題に関する理論的・実証的研究に取り組みました。研究テーマは「消費者の語りを活用した企業の戦略的情報発信」です。ブランドが行う「口コミを前提とした情報発信」が、消費者の共感を呼び、購買に至るメカニズムを統計分析で明らかにしました。マーケティングを学ぶ中で、特にモノやサービスの価値が「伝え方」(見せ方)で大きく変わり得る点に魅力を感じ、今の業界を選びました。現在は、企業に対し、長期的なブランディング戦略から短期のコミュニケーション施策まで幅広い提案を行っています。提案活動ではゼミで培った学術的知識と論理的思考力が、活かされていると強く実感しています。

各学科で学べること



授業レポート

比較経営論(アメリカ) 宮田 憲一 教授

変化とイノベーションに挑み続けるアメリカ企業の経営活動を事例から学びつつ、日本との比較の視点からアメリカ企業経営の戦略、組織、制度の特徴を考えていきます。



授業レポート

法人税法 加藤 友佳 准教授

税金はあらゆる経済取引にかかります。効果的な経営戦略には、法人税法を理解する法的思考が必要です。M&Aなどの最新の事例について一緒に学びましょう。



授業レポート

Introduction to Public Management 菊地 端夫 教授

行政を中心とした公的組織の経営の考え方や内外の事例について、担当教員による講義とグループワークによる比較事例分析の双方によって検討を行います。講義はすべて英語で行われ、例年受講生の約半数が留学生です。

経営学科

学部ガイド P.23

現代企業を多面的に読み解く

不確実性の高い経営環境のなかで、未来を読み解く力を備え、企業の経営の方向性を定めることができる人材を育成します。1年次には、学部必修科目の経営総論、経営学、会計学、公共経営学、近代経済学などにより、経営に不可欠な基礎知識を修得します。2年次には、企業論や経営管理論などの科目により、企業経営の全体構造を学びます。3・4年次には、学生の問題意識や関心に合わせて、国際経営戦略や人的資源管理、情報・技術マネジメントおよび企業者史などの科目により専門性を高め、企業経営に対する理解を深めていきます。

目指す
将来イメージ

民間企業の経営企画等スタッフ部門で経営計画、マネジメントに携わる／民間企業の事業部門で企画、マーケティング、営業に携わる／経営コンサルティング等で企業の経営革新やマネジメントを支援するプロフェッショナルとなる／スタートアップ、ベンチャー企業を起業し、経営者となる

会計学科

学部ガイド P.25

組織の状況を見透しトキアカス

組織の状況を詳細に把握できる会計の知識とスキルを武器に、多方面で活躍するスペシャリストを育成します。1年次には経済社会における会計の役立ちを知り、2年次には会計の二大領域における基礎的な知識とスキルを学びます。3・4年次には専門分野におけるより高度な会計の知識とスキルを体系的に修得し、組織の状況を見透し、人々に解・説き明かす能力を身につけます。また、1年次から参加可能な高度職業会計人養成トラック「CAP」では、公認会計士や税理士などの資格取得を全面的に支援します。

目指す
将来イメージ

一流企業の経営企画部門や財務・経理部門で働き、経営者の参謀になる／グローバル企業で財務・経理を取り仕切るCFO(最高財務責任者)になる／公認会計士、米国公認会計士、税理士、国税専門官などの高度職業会計人になる／会計や財務に明るい国家公務員、地方公務員、NPO職員になる／経営の指導・助言を行う経営コンサルタントやシンクタンクの研究員になる

公共経営学科

学部ガイド P.27

公共性・社会性ある人材を育成

公共組織マネジメントの専門人材育成を目的に、日本初の学科として2002年に誕生しました。現代は行政体に加え、営利企業と非営利組織が協働して社会課題解決や公共サービス供給の役割を担う時代。本学科では非営利組織の運営と営利組織の社会貢献活動について理解を深め、持続可能でウェルビーイングな社会形成を目指します。スポーツ・医療・福祉を含め、公共組織のマーケティング、経営戦略、財務等について、地域・企業・大学院と連携した、広く深い探究心を育成するプログラムを提供します。

目指す
将来イメージ

社会課題に対応するNPOやNGOで働く／国・自治体で公務員として実務に携わる／営利企業でCSR(企業の社会的責任)活動を担う／スポーツ・ビジネスに携わる／医療や社会福祉関係企業で働く／コミュニティ・ビジネスやパブリック・ビジネスを立ち上げる／教員として次世代の人材を育成する

▶ 教員紹介・研究テーマ

※2026年4月1日現在 ※退職等により変更となる場合があります。

経営学科

科目	氏名	研究テーマ
日本経営史	佐々木 聡	日本の経営発展の実証的研究
中小企業論	岡田 浩一	中小企業経営の理論的研究
比較経営論(中国)	郝 燕書	中国と日本の経済・経営の比較研究
企業論	牛丸 元	イノベーションを創出する企業間関係
経営心理学、ナレッジ・マネジメント論	中西 晶	高信頼性組織とレジリエンス、安全とセキュリティのマネジメント
経営と環境	松野 裕	環境政策の経済学的研究
経営戦略論	歌代 豊	経営戦略のマネジメント
経済地理学	中澤 高志	労働の地理学、現代日本の地域構造・都市構造の変容
生理学、トレーニングの科学、産業生理学	一之瀬 真志	運動生理学
マーケティング・マネジメント	原田 将	ブランド価値経営、グローバル・ブランド管理の戦略・組織、新興国市場におけるブランド構築
経営社会学	山下 充	人的資源管理の歴史・国際比較、人事部門の機能と歴史
経営管理論	青木 克生	製造業におけるカイゼン活動の国際比較研究、企業間関係とイノベーション、組織学習の理論的研究
比較経営論(西欧)	清水 一之	インダストリー4.0(第4次産業革命)
近代経済学、ビジネス・エコノミクス	三上 真寛	組織・制度の経済学
雇用関係論・労使関係論	石塚 史樹	特に独企業の人的資源管理・労使関係・企業統治にかかわる実証研究
人事労務管理論	山崎 憲	企業活動をめぐる社会・経済システム
経営史、比較経営論(アメリカ)	宮田 憲一	企業成長の経営史、クリエイティブ産業史
グローバル・マーケティング論	古川 裕康	国際市場細分化、グローバル・マーケティングの標準化ー適合化研究
国際経営論、Fundamentals of Management	鷺見 淳	グローバル化と企業の国際経営
財務管理論、現代コーポレートファイナンス論	鳥居 陽介	株式所有構造の変遷と主要株主が企業に与える影響
経営組織論、組織行動論	谷口 諒	イノベーションプロセスにおける「失敗からの学習」、カテゴリとイノベーション、組織に対する社会からの評価
統計学、経営統計学	鶴田 靖人	ノンパラメトリック統計、応用統計学、経済統計
スタートアップ企業論	カン・ビクトリヤ	起業家活動、スタートアップ・エコシステム
イノベーション・システム	一小路 武安	イノベーションのマネジメントや受容のプロセス
数学・経営基礎数学	高澤 陽太郎	オペレーションズ・リサーチ
Transcultural Management	永井 裕久	次世代グローバルリーダーの育成
イノベーション・マネジメント	新宅 純二郎	日本の製造業の開発・生産戦略

会計学科

科目	氏名	研究テーマ
財務諸表論	大倉 学	制度会計の特質考究
環境会計論	千葉 貴律	社会と会計
財務会計総論、NPO会計論	石津 寿恵	営利企業、非営利企業における利益概念
監査論	小俣 光文	監査制度の有効性の向上、モニタリング機能を中心とした企業ガバナンス向上
原価計算論	長野 史麻	マネジメントコントロールとCSR
管理会計総論	大槻 晴海	原価企画に関する理論的・実証的研究
法人税法、税法	加藤 友佳	変化する社会に対応する税制
原価管理論	森光 高大	主観的業績評価を伴うマネジメントコントロール、原価および収益性の管理
経営分析論、国際財務報告論	平屋 伸洋	資本コストと利益マネジメントの関係
現代会計基準論	浅野 千鶴	会計基準における基礎概念の研究
会計史、基礎専門演習	森田 広大	英米会計史研究

公共経営学科

科目	氏名	研究テーマ
ライフスタイル・マネジメント論	鈴木 正敏	健康科学、運動とNK細胞
西洋史、公共歴史論	藤原 秀登	ヨーロッパ中近世史
非営利組織論、Social Impact Investment	塚本 一郎	社会的企業、企業の社会的責任、社会的インパクト投資に関する研究
スポーツ・マネジメント論	田中 充洋	ボールゲームのコーチング論
NPO経営戦略論、ソーシャル・ファイナンス論	小関 隆志	ソーシャル・ファイナンスによる金融包摂
公共表現行為論、日本文学	畑中 基紀	近代日本文学、表現論
行政経営論、行政経営戦略論、Introduction to Public Management	菊地 端夫	行政および公共政策の比較研究
哲学、社会思想、宗教思想	枝村 祥平	17世紀西洋哲学史・比較思想
日本文学、生活文化論	森田 直美	色彩・染織・服飾を視座とした平安期の文学・文化研究、有職故実研究
医療マネジメント論、福祉マネジメント論	早川 佑知子	アメリカの病院における人事労務管理
スポーツ・レジャー・レクリエーション論	吉松 梓	野外教育、多様なニーズのための自然体験活動
公共ガバナンス論、自治体マネジメント論	石渡 幹夫	防災、気候変動適応、水資源管理に関わる政策
企業の社会的責任論	生田 孝史	非財務パフォーマンスと企業価値の関係性

教養教育

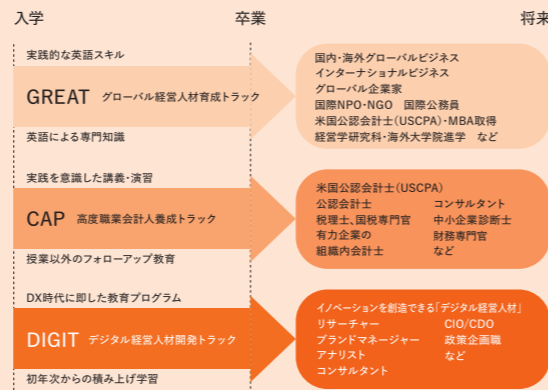
科目	氏名	研究テーマ
英語、外国文学(英米)	辻 昌宏	英詩、イタリア詩における音韻構造
英語、Liberal Arts Seminar in Foreign Languages	山下 佳江	日韓英の比較言語研究、英語ライティングの技法研究
英語、Global Issues	キアナン・バトリック J.	言語と異文化コミュニケーション
ドイツ語、ドイツ語コミュニケーション	竹内 拓史	近現代のドイツ語圏文学
Strategic Business Communication, Transcultural Business Communication	金子 敦子	マネジメント・コミュニケーション、グローバル経営人材育成
中国語	野田 寛達	中国語学(語彙、文法)
フランス語、フランス文化論、外国文学(フランス)	折方のぞみ	フランスの文学と思想
ドイツ語	畑 一成	ゲーテ色彩論、環境哲学、デジタル主権
英語、Global Issues, Academic Reading/Writing, English for Business Studies, Study Skills, U.S. Culture	デュプリス、ジョン A.	Desirable Difficulties in Second Language Acquisition
中国語、外国文学(中国)	笠見 弥生	中国の白話小説
英語	真継 左和子	言語テストング、English-medium instruction(EMI)とその評価
フランス語、フランス文化論、外国文学(フランス)	佐々木 匠	20世紀フランス文学・思想、特にアルベール・カミュ研究
International Business Program, Global Issues	モロー、ロバート J.	Academic writing, Autonomous learning, Global Issues

TOPICS 経営学部の3つのトラック「GREAT」「CAP」「DIGIT」

経営学部には人材育成のための3つのトラックがあります。グローバル経営人材育成トラック「GREAT(Global Resources English Applied Track)」は、将来、国際ビジネスでの活躍を目指す学生のための4年間のカリキュラムです。特別編成の少人数クラスで実践的な英語スキルを身につけながら、英語による授業科目で教養や専門知識を学びます。

高度職業会計人養成トラック「CAP(Course of Accounting Profession)」は、公認会計士、税理士、米国公認会計士などの資格試験の在学中合格を目指す学生のためのカリキュラムです。CAP専用クラスは1年次から設置されており、より早く、より体系的に会計の専門知識とスキルを学ぶことができます。

デジタル経営人材開発トラック「DIGIT(Digital Insights for Growth and Innovation Track)」は、データサイエンス・数理統計・AI等のデジタル技術を利用・活用してビジネスデータ・ソーシャルデータの分析からインサイトを探索し、新たな社会の在り方やプロセス改革・新製品サービス開発・事業創造等のイノベーションを創造できる「デジタル経営人材」を育成します。詳しくは学部HPをご確認ください。



文学部

School of Arts and Letters

人間を理解する力、
異文化を理解する力を磨く

MESSAGE

「人間とは何か」を探究することで
人間が生きる「意味」を創造する学問

文学部は14世紀ルネサンス期に興った「人文学 (Science of Humanities)」を基盤とする学部です。3学科14専攻のすべてが「人間とは何か?」という根源的な問いに挑んでいます。この問いを突き詰めることは、どんな時代や社会でも必要な「人間が生きることの意味」を発見し、創造していくことに繋がります。こうした「創り出す力」こそが、「人文学」の真価と言えるでしょう。文学部では、専門的知識やスキルを修得すると同時に、古今東西の「知の森」を駆けめぐり、幅広い教養や新しい発想・視点を身につけ、表現力を磨くことができます。こうした学びを通じ、卒業後は、「考える力」と「他者を思いやる力」を備えた強い「個」として、たくましく社会で活躍することを期待しています。

学部長 田母神 顯二郎

PROFILE

1982年早稲田大学第一文学部英文学専攻卒業。明治大学大学院文学研究科仏文学専攻を経てパリ第八大学博士課程修了。文学博士。1999年明治大学文学部専任講師に就任。2009年より専任教授。2023年から現職。研究テーマはフランス近現代詩。専門科目は、「フランス文学演習」、「文学研究方法論」。主な著書に『Fragments & Wholes』、『ベルギーを<視る>』(以上、共著)など。

「人間」を探究し、未来を創る

明治大学文学部の強み

「人間学」を究めることを目指す
3学科14専攻

1 専門性と学際性が同時に身につくカリキュラム、他学科・他専攻の科目も選択可能

十分な専門知識と幅広い教養を身につけるために「専門科目」と「教養科目」によるカリキュラムを編成。学科や専攻を越えた科目も受講できます。



2 自らの考えを積極的に発信できる人材に! 少人数ゼミナール教育

少人数のゼミナールが、1年次から全ての専攻に設置されています。教員と学生の距離が近く、議論を交わしながら、主体的に調べ、学ぶ姿勢を身につけます。さらに専攻によっては現地研修やフィールドワークを通じ、実践的総合力を高めています。



3 教員や学芸員などの資格取得をサポート、資格課程科目の設置

本学部では、「教員」「学芸員」「社会教育主事」「司書」「司書教諭」の資格取得が可能です。1年次から資格取得を見据え、サポートするカリキュラムが充実しています。



4 海外現地研修や留学(長期・短期)などの多様な国際プログラム

海外現地研修、学部間協定留学など文学部独自の留学プログラムが利用できます。留学経費を助成する制度も設けられています。



少人数のゼミナール教育を基本とした、体系的・順次的な教育課程の編成

文学部のカリキュラムの特長は、4年次に執筆する卒業論文に向け、より系統的な学習ができるよう、各専攻でカリキュラムが工夫されている点です。すべての授業科目が半期(半年)で完結するため、春学期と秋学期で異なる授業科目を履修するなど、フレキシブルな学び方を選択することが可能です。自身の興味や関心に基づき、自専攻の科目および共通選択科目以外に、他専攻の科目も含めて幅広く学べます。

▶ 学部独自の学習支援・助成制度

学習支援 詳細は学部ガイドp.47へ

- ・文学部独自のキャリア支援科目
様々な業界や職種で活躍する卒業生を講師に招き、キャリアデザインについて考える授業。
- ・文学部生向け就職・キャリア支援イベント
社会で活躍している文学部卒業生の生の声を聞くことができるパネルディスカッションイベントを実施。

助成制度

- ・語学検定受験料の助成
各種語学等検定試験の受験料について、助成金を支給。
 - ・海外自主計画短期研修サポートプログラム
自主的に海外で行う語学研修やフィールドワークなどに対し、渡航等の費用を助成。
- その他、学科や専攻ごとの助成制度も設けられている。

▶ 学部主催の留学制度

留学プログラム 詳細は学部ガイドp.43へ

- ・SOAS短期研修プログラム
- ・トロント大学短期語学研修
- ・海外現地研修
- ・協定留学・認定留学
- ・海外自主計画短期研修サポートプログラム

協定校

バンベルク大学/ビーレフェルト大学/
アルベルト・ルートヴィヒ大学フライブルク/
ホルダー・モンテニュー大学/ポー・アドゥール地方大学/
北京師範大学/高麗大学/国立台湾師範大学/国立中興大学/
国立台湾大学/国立台北大学/シエク・アンタ・ジョップ大学

Curriculum	4年間のカリキュラム		1年次	2年次	3年次	4年次
学びの特徴			教養科目で幅広い知識を習得し、各専攻の基礎を学びます。1年次からの少人数の演習(ゼミ)を通して、問題発見・解決の基本姿勢を身につけます。	専門基礎科目を系統的に学び、各専攻の理解を深めます。他学科・他専攻の科目を柔軟に履修できるシステムで、自身の興味の幅を広げ、多角的な視点を養います。	専門的な演習(ゼミ)が本格化し、発表や討論を通じて論理的思考力を鍛えます。史学地理学科は現地調査、心理社会学科は実習など、専攻ごとに研究します。	4年間の学びの集大成として卒業論文を執筆します。徹底した個人指導のもとで専門性を完成させます。資格取得やキャリア支援を受け、卒業後の進路を見据えます。
専門科目	専攻必修科目/専攻選択科目 ※各専攻の科目詳細は学部ガイドをご確認ください					
外国語関係科目 ^{※1}	必修	英語/ドイツ語/フランス語/ロシア語/スペイン語/中国語/朝鮮語				
ウェルネス科目		ウェルネスライフ論/ウェルネススポーツ				
共通選択科目		思想と宗教 総合講座	地域と文化 情報リテラシー	社会と環境 ウェルネスライフ	知の新領域 留学促進プログラム	ランゲージ ^{※2} 教職に関する科目
キャリア支援科目	選択科目	キャリア・デザイン/ジョブ・トライアル				
留学関係科目		海外短期留学関係				
日本語教員養成プログラム科目		日本語教授法/日本語教育学演習/日本語教育実習/日本語教育学概論				
その他		学部間共通外国語/他学部設置科目/グローバル人材育成プログラム/各専攻大学院設置科目				

※1 専攻により必修科目が異なります。

※2 2年次以降の科目で、一部の科目は特修外国語関連科目です。詳細はP.108注目の学び「特修外国語コース」をご参照ください。

注目の学び



言葉は文化の源(みなもと) 「特修外国語コース」

言葉は文化の源であると同時に、異なった文化を覗き込むための「窓」でもあります。広い視野を持った「人間学」の探究を目指す文学部では、大学院の文学研究科と共同で、さらに充実した新たな語学教育カリキュラムである「特修外国語コース」を2024年度から開始しています。ドイツ語、フランス語、スペイン語、朝鮮語、中国語、アラビア語、古典ギリシア語、ラテン語などの未習外国語に関し、1・2年次で基礎を充実させたあと、3・4年次では大学院文学研究科に設置された、中級、上級レベルの授業が受けられるようになります。

Student Message

学生からのメッセージ



真摯な姿勢で挑む土器研究、私大最古の学びで高める専門性

熊野 裕仁さん 史学地理学科 考古学専攻4年 千葉県私立八千代松陰高等学校卒業

本学の考古学専攻が私立大学で最初に設立されたという歴史に魅力を感じて入学。現在は卒業論文作成に向け、地域の埋蔵文化財センターの協力を得て出土土器をじっくり観察し、研究に取り組んでいます。この過程で、土器の観察や記録方法などの専門技術に加え、地域の研究者と議論して理解を深めるコミュニケーション能力を身につけました。今後は、特に興味がある「弥生時代の島嶼部利用」について研究を深めていきます。まずは、最も近くに位置する伊豆諸島を制覇することが目標です。将来は、遺跡調査を通して専門性を高めると同時に、考古学に真摯に向き合って研究を続けていきたいと考えています。

Alumni Message

卒業生からのメッセージ



ルネサンス研究で養った、社会の複雑さを読み解く多角的な視点

小寺 達也さん 日本電気株式会社 ナショナルセキュリティ営業統括部担当
史学地理学科西洋史学専攻 2023年卒業 (東京都私立東京農業大学第一高等学校卒業)

私は現在、国の安全を支える重要なプロジェクトに携わっています。安全保障に関する複雑な政策やトレンドを先回りして捉え、お客様に提案を行うのが私の仕事です。この仕事の根幹には、西洋史学専攻で育まれた姿勢があります。在学中はルネサンス期イタリアの美術史、特にメディチ家による芸術家支援の研究に没頭。研究の魅力は、芸術作品の表面的な鑑賞を超え、その背後にある当時の政治的意向や社会構造を読み解く点にあると感じました。この多角的な視点と分析力は、今も国内外の連携や社会情勢を理解することに生きており、かけがえのない財産になっています。

各学科・専攻で学べること



授業レポート

日本文学演習(3年)A・B

竹内 栄美子 教授

1920～30年代のモダニズムとプロレタリア文学を読む2年次の演習を踏まえて、3年次の演習では、1940年代前半の戦争を描いた作品を読みます。戦争の様々な局面を描いた小説を読むことで、人間や社会を学び直します。

文学科 日本文学専攻

学部ガイド P.13

日本文学・国語学・漢文学・比較文学から人間の本質を読む

国際化やメディアの多様化が進むほど、自分の国の文化について正確に知ること、とりわけ「自分たちの言葉=日本語」について深く考察することが重要になってきます。日本文学専攻は、日本文学・国語学・漢文学・比較文学について、様々な角度から考え、学びます。

1950年の「日本文学専攻講座」開設の理念、「いま私たちが生きている現代を重視する立場に立ちながら、古典から近現代までを視野に入れた日本文学の研究を行う」「世界の文学という広い視野から日本文学の特質を考えてゆく」は、今日に受け継がれています。さらに現在では日本文学・国語学・漢文学・比較文学を通して海外の大学や学生との交流が増し、豊かな学びが進んでいます。

卒業論文テーマ(例)

- ・『古事記』上巻における世界観
- ・食と心理の方法—『芋粥』と『小僧の神様』の比較—
- ・平家物語の多面性—人物造型と救済の思想—
- ・『風の歌を聴け』からみる村上春樹のはじまり
- ・色街と樋口一葉—「にぎりえ」論を中心に—
- ・漫画にみる差別語—手塚治虫作品を対象として—

文学科 英米文学専攻

学部ガイド P.15

英語の習得を軸に専門分野を深める

英語はコミュニケーションのための共通語です。本専攻のカリキュラムは、時代の要請に応える英語教育と、伝統的な学問体系に基づいた英語教育の調和を考えています。英米文学の歴史、各時代の著名な作品を学ぶクラスが多数設置され、どの授業も英語文化のすばらしさを実感できます。英語を中心として言語そのものの仕組みを研究する英語学の授業も充実しています。また、「コミュニケーション手段」としての英語を学ぶために、ネイティブスピーカーの授業を含む実践的なクラスが用意されています。

卒業論文テーマ(例)

- ・雑誌GINGERとMOREのテキスト分析—女性の社会的役割と表象の差異
- ・ビートニクと若者—ケルアック『オン・ザ・ロード』を中心に—
- ・父と子の関係から考えるアイデンティティの獲得—フォークナー『響きと怒り』からアニメ『新世紀エヴァンゲリオン』まで—
- ・A Critical Consideration of Criticisms of Conrad's.
- ・ジョン・リース『サルガッソーの広い海』による『ジェイン・エア』批判:視点、名前、そして帰属意識

文学科 ドイツ文学専攻

学部ガイド P.17

ドイツ語圏文化の波動に共鳴しよう

ドイツ語は、ドイツのみならず、オーストリア、スイスなどヨーロッパ中部・西部で広く話されています。言語と文学、文化のバランスよい学習を、しかも歴史と現在の両面から学びたい人には、本専攻は理想の場といえます。1年次よりドイツ人教員によるドイツ語授業が用意されていて、等身大のドイツ語圏文化に接することができます。なお、本専攻はドイツのバンベルク大学、ビーレフェルト大学、またオーストリアのウィーン大学などと密接な関係にあり、音楽の都ウィーンで同大学の夏期語学講習会に参加し、ヨーロッパの空気を肌で感じながらドイツ語を自分のものにしていくこともできます。

卒業論文テーマ(例)

- ・インゲボルク・バッフマンの詩学
- ・ドイツの公共住宅の歴史
- ・障がい者就労支援の日独比較
- ・W.G.ゼーバルトが1990年代に描く<戦争>
- ・ハンナ・アーレント<悪の凡庸さ>とは何か



授業レポート

ドイツ文化演習A・B

渡辺 学 教授

新しい日本語とドイツ語、両言語の慣用表現を比較しながら、人間言語の多様性を再発見し、言語変化のメカニズムを解明していきます。教員の概説のほか、学生の発表と討論で「言語と文化」のかわりを照らし出します。



授業レポート

基礎演習(フランス文学)A・B

根本 美作子 教授

入学したばかりの学生と、フランスがいったいどのような文化のどのような国なのかを多角的に考察しながら、問題の立て方、レポートの書き方、発表の仕方などといった基本的技術を身につけていきます。



授業レポート

基礎演習(演劇学)A・B

伊藤 真紀 教授

ひとりの劇作家が書いた複数の戯曲を読み比べます。一作品ずつ担当を決めて順番に発表する方式ですが、発表後の討論の中では、ロマンチックな解釈を聞いたり……。毎回新たな「発見」があります。



授業レポート

文芸メディア演習(3・4年)I・II

佐伯 和香子 専任講師

室町時代から江戸時代前期にかけて制作されたお伽草子(室町物語)を読んでいます。諸本の比較や語釈を行うとともに、学生が自分で設定したテーマに沿って研究発表を行い、全員で討論を重ねる中でテキストの読みを深めています。

文学科 フランス文学専攻

学部ガイド P.19

フランス文化を多角的に堪能する

フランス人にとって、人生を真の意味で豊かにするものはすべて文化。芸術や文学だけでなく、料理もスポーツも、恋愛も友情も、文化の大切な一部です。フランス語は、そんな文化の国をよく知るためのひとつの架け橋です。

本専攻のカリキュラムは、学生の個性や自主性を重んじ、充実した講座、スタッフが用意されています。実用的な語学、文学や思想、美術や音楽、演劇、映画などのフランス文化全体、比較文化的な視点からの研究など、様々な学び方が可能です。〈考える力〉や〈表現力〉の向上にも力を入れています。

卒業論文テーマ(例)

- ・ジャン=ジャック・ルソーの(私的)なもの<公的>なもの
- ・21世紀のライシテ~異文化との共生と結合
- ・オノレ=ド=ミエと19世紀のフランス社会
- ・ロマネスク美術の美意識
- ・『タルチュフ』に見られる演劇とフランス絶対王政の関係
- ・フランスにおける国語教育の重要性とその実情

文学科 演劇学専攻

学部ガイド P.21

演劇の魅力を経史的・理論的に学ぶ

西洋でも日本でも、演劇はそれぞれの国の文化伝統の中で歴史的に独自の発展を遂げてきました。劇場だけでなく、上演台本としての戯曲、舞台装置、衣装、俳優の演技などに、興味深い特色が見受けられます。舞台芸術としての演劇の様々なジャンル、ドラマ、オペラ、パレエ、ダンス、ミュージカル、パントマイム、そして映画も含め、これらの芸術に共通しているのは、「今、ここで」体験する一回限りのパフォーマンスであるという演劇の原理です。本専攻では、それらの多彩な演劇を歴史的、理論的に学んでいきます。

卒業論文テーマ(例)

- ・シェイクスピア作品の異性装上演の受容—『お気に召すまま』を中心に
- ・ミュージカルにおけるメタ的な手法について—Avenue Qに見るミュージカルの変化~
- ・石牟礼道子 新作能『不知火』論—『天湖』との連続性に着目して
- ・地域社会と結びつく文化芸術 ~地域活性化と文化芸術振興の共存に向けて~
- ・ニール・サイモン分析 ~世界に広く受け入れられる劇作家~

文学科 文芸メディア専攻

学部ガイド P.23

「メディアとしての文芸」を探求する

文字や映像をめぐる現代のメディア環境は、多様で複雑になっています。それは、単にコミュニケーション手段の多様化を意味するものではなく、その中に生きる人間存在そのもの、思考、行動に大きな変容をもたらしています。

どんなメディアでも、その基盤は「文字」にあります。そこに立ちかえり、「文字」の中を生きるとはどのようなことなのかを根源的に考察することが、実は大きな課題ではないでしょうか。

本専攻は、多様なメディア環境の中で自己表現をする力、つまり、主体的に生き抜く「個」を育てていきます。

卒業論文テーマ(例)

- ・「浄瑠璃物語」における笛の名手・源義経—恋愛において笛が果たす役割
- ・教員の過重労働をめぐる新聞報道の特徴—『読売新聞』、『朝日新聞』、『毎日新聞』の分析
- ・「吉備津の釜」論—鳴釜の神事の解釈をめぐる
- ・日本社会の変化と広告コピーの関連性—戦後から現在までの酒類広告を例に
- ・森鷗外『青年』の(方眼図的生活)
- ・滝口悠生『水平線』論—時間・視点・記憶に着目して

各学科・専攻で学べること



授業レポート

演習Ⅰ（日本史）A・B

落合 弘樹 教授

春学期は明治維新に関する最新の研究を反映した文献を輪読し、討論を通じて理解を進展させます。秋学期は幕末・維新期の一次史料を輪読し、行間から情報を読み解く能力を習得し、卒業論文につなげていきます。

史学地理学科 日本史学専攻

学部ガイド P.25

過去の知から未来のあり方を考察する

本専攻の大きな特長は、古代・中世・近世・近代・現代の各時代をそれぞれ研究対象とする専任教員が9名揃っている点です。どの時代の、いかなる分野でも、自由に研究テーマを設定することができます。とくに各ゼミが共通して重視するのは、自分の目で確かめ、深く思考をめぐらす研究です。史料(原典)のみならず分析するとともに、歴史の現場に立つことで得られる感覚や情報を研究に生かすことを大切にしています。現代から過去を見ることは、過去から私たちの生きている現代をかえりみることもできます。歴史研究に取り組むことで、未来をつくる創造力を培いましょう。

卒業論文テーマ(例)

- ・古代の陵戸とその卑賤視について
- ・山門・室町幕府から見る山門使節制度
- ・浅井了意著『鬼利至端破却論伝』の成立事情
- ・『江戸町触集成』に見る江戸の食
- ・近世幼年者犯罪と身分制度の関わり
- ・近代東京における都市住宅事情
- ・日本陸軍の第一次世界大戦認識と国防思想
- ・戦後高等学校家庭科をめぐる特性論の変遷

史学地理学科 アジア史専攻

学部ガイド P.27

アジアの諸言語と奥深い文化に出会う

世界経済、外交を動かし、変動し続けているアジア。日本は、そのアジアの一員として、重要な役割を果たすことを期待されています。今後アジア各国との交流はますます深まり、関係は一層緊密となっていくでしょう。そのために重要なのは、なによりお互いの歴史を理解することです。互いを尊重、尊敬しつつ、心の通った交流ができる互恵の精神が必要です。本専攻は、アジア世界に積極的にコミットし、歴史、文化を理解し、アジア諸国の一員として信頼されるグローバルな人材を育成します。

卒業論文テーマ(例)

- ・則天武后の宗教政策と宗教観
- ・モンゴル時代におけるインド洋交易の実態と意義
- ・史書『罪惟録』の比較検討—張献忠伝を中心に—
- ・旅行記から見る17世紀オスマン朝におけるイエニチェリの拡大
- ・新生活運動が中国社会に与えた影響—キリスト教女性を中心として—
- ・13世紀アルメニア語年代記から見るマムルーク朝—ヘトゥーム一世期における対マムルーク朝外交—

史学地理学科 西洋史学専攻

学部ガイド P.29

時空を超えた異文化の魅力にふれる

国際社会の情報化、ボーダーレス化は著しく、世界各地のニュースがリアルタイムで伝わってきます。様々な情報の本質をつかむためには、その地域の歴史、文化、言語などを理解することが大切です。本専攻では、古代史・中世史・近世史・近代史・現代史(ギリシア・ベルギー・フランス・ロシア・ドイツ・オーストリア・アメリカ)を専門とする教員が、学生諸君の勉学をサポートしています。1年次より基本的な歴史研究の方法論を学び、その地域の言語の習得と文献読解を進めて、西洋世界への理解を深めるカリキュラムが組まれています。西洋史の勉強を通して、世界に対する幅広い見識と歴史についての深い教養を身につけ、それをもとに自己を世界の中にイメージする想像力を養います。

卒業論文テーマ(例)

- ・ハプスブルク君主国における国民主義の問題
- ・イタリア・マフィアの社会史
- ・古典期アテナイにおけるレイトゥルギアの意義
- ・バロック期におけるスペインの画家と社会
- ・ロシアにおける農奴制廃止と農民の生活の変化
- ・1920年代から41年までの日米外交



授業レポート

史料演習(アジア史)A・B

鈴木 開 准教授

近世・近現代の歴史資料に触れながら卒業論文を書くための史料読解や研究の方法を学びます。漢文をはじめとする諸言語で記された史料、地図や写真などの図像資料を読みとぎながら歴史的思考力を身につけていきます。



授業レポート

演習Ⅰ(西洋史)A・B

青谷 秀紀 教授

私の演習(ゼミ)では、春学期における論文・史料の講読や秋学期の自由報告により、西洋中世史に関する卒業論文を執筆するための土台づくりをしてもらっています(上の写真は、大学のセミナーハウスにて3・4年生合同で行われた合宿の際のものです)。



授業レポート

考古学実習Ⅰ・Ⅱ A・B

若狭 徹 教授

夏季集中で実施するフィールド重視の課目です。合宿での発掘調査、遺跡踏査、遺物の整理など、各教員が独自の実習計画を示し、履修学生はいずれかを選択して参加します。考古学の基礎的技術を獲得し、その成果をグループでまとめ、実習報告会で発表します。



授業レポート

地理学研究法A・B

B担当: 山本 大策 教授

地理学専攻のモットー「歩く、観る、考える」に沿って、地理学研究の基礎を学びます。2024年度は調布市を調査地とし、学生自身が事前準備をして、現地を案内する形で、河川や地形と土地利用の関係や鉄道地下化に伴う再開発などについて考察を行いました。

史学地理学科 考古学専攻

学部ガイド P.31

考古資料にふれ、調べ、学び、読み解く

本専攻は1950年に創設された、私立大学では最古の考古学専攻です。以来、考古学史に残る重要な発掘調査、たとえば群馬県岩宿遺跡や静岡県登呂遺跡などの調査を、数多く手がけてきました。長い伝統と実績により、優れた専任教員、専任スタッフが多数揃っており、資料にも恵まれ、日本でもっとも充実した考古学専攻であると自負しています。メインの研究分野は日本列島ですが、学外からも著名な研究者を招いて、海外の考古学の講義なども開講しています。最高の環境で、充実した学びを約束します。

卒業論文テーマ(例)

- ・中里貝塚と東京湾西岸地域内貝塚における採貝活動の共通点について
- ・土器付着炭化物の安定同位体分析からみた縄文時代後期の土器機能及び生業活動
- ・南関東における弥生時代中期の木製品模倣鉢形土器
- ・榛名山麓集落遺跡から見た古墳時代集落の再検討
- ・武人埴輪の研究—型式と展開—
- ・埋葬施設からみた古墳時代後・終末期の常総地域の社会

史学地理学科 地理学専攻

学部ガイド P.33

地理を学ぶために、歩く、観る、考える

世界の国や都市、山脈や河川、各地の産業など、日本や世界の各地域における自然環境のなりたち、都市や農村における経済や社会の特性、さらに宗教、言語、民族などの文化の地域性など、人間と自然にかかわる幅広い領域を探求します。モットーは「歩く、観る、考える」。フィールドワークを重視しています。また、グローバル化や多様化する地域問題に対処するために、地理情報システム(GIS)や画像処理技術を学び、データの整理、分析のために、コンピュータを利用した研究技術を身につけることができます。

卒業論文テーマ(例)

- ・キッチンカー出店から考える公開空地の「居場所」性
- ・「デベロッパ景観」化する都市の現在
- ・南大東島の文化の軌跡
- ・都心型マイクロブルワリーの実態
- ・島原半島の集落景観
- ・富士川における盛夏期の風系の観測的研究

TOPICS

文学部独自のキャリア支援

文学部では、様々な角度からキャリア支援を行っています。キャリア支援科目の一環として開講されている「キャリア・デザイン」では、人生設計を見据えて社会の機制や課題を学ぶとともに、自らを見つめなおす機会になることを目指します。また、文学部生向けのキャリア支援イベントを定期的実施しています。イベント以外では、特設サイト「文学部卒業生からのメッセージ〜文学部での学びがあってこそ今の自分がある〜」を公開し、文学部卒業生が文学部での学びをどのように生かしているかを紹介しています。

文学部卒業生からのメッセージはこちら



各学科・専攻で学べること



授業レポート

臨床心理学概論

佐々木 掌子 准教授

臨床心理学とは、心理学を用いた援助技法や理論を研究する学問体系です。本授業では、まず基本を押さえ、さらにジェンダーやセクシュアリティに関する問題も取り扱います。個人だけではなく、社会の問題としても捉える視点を養ってもらいたいと思います。



授業レポート

現代社会学実習A・B

平山 満紀 教授

明治大学内で「生理の困りごととニーズ」の調査をし、男性が生理について知る機会がない、酷い生理痛があっても婦人科に行きにくい、などの問題を明らかにしました。問題解決のため、医学知識の掲示や生理用品の展示などの「生理のワークショップ」もしました。



授業レポート

哲学演習（3年）I・II

井上 貴恵 准教授

哲学や思想分野の一次テキストを精読し、難解な文章を正確に読み解く技能を鍛える授業です。テキストの一文一文で立ち止まり、他者の言葉を自分の言葉へと「変換」する練習を行います。精読は理解のためだけでなく、思考を鍛える実践です。読むことを通じ、自らの思考の精度を高めます。

心理社会学科 臨床心理学専攻

学部ガイド P.35

心の問題に理論と体験からアプローチする

臨床心理学とは、いわゆる心の問題を抱えた人を理解し、援助するための実践的な心理学です。カウンセリングは臨床心理学の実践のひとつの形態であり、臨床心理士・公認心理師はその訓練を受けた専門家に与えられる資格です。しかし、本専攻は専門家になることだけが目的ではありません。より深い意味において、人の心のありようを理解し、人が精神的に成長し変容するために必要なことを幅広く学びます。心理学全般と、臨床心理学の実践につながる様々な体験学習を重要視しています。

卒業論文テーマ(例)

- 自己肯定感と公的自意識がSNS依存に及ぼす影響について
- 大学生におけるがん患者さんに対するスティグマに影響を与える要因の探索
- 大学生の性別役割意識の形成要因の検証
- 両親間の葛藤認知が青年のソーシャルスキルに与える影響
- 日本と中国における表情認知の差異
- 自傷行為者及び自傷念慮を抱く者の心理特性とその性差についての検討

心理社会学科 現代社会学専攻

学部ガイド P.37

社会のあり方を現場から学び、実践する

現代社会では、外国人や性的マイノリティ、障がい者など、多様な人たちとの共生関係づくり、地産地消などの循環型社会づくり、地域外の人たちとの交流を通じたまちおこしなど、様々な市民運動や市民活動が行われています。本専攻の特長は、このような運動や活動の現場にふれながら社会現象を研究していくことです。理論的に学ぶとともに、実際の現場に出かけていき、人々の話を聞き活動にも参加します。授業と学外での実習を通して臨床の知を養い深めます。多角的な視点から、学問的、実践的に社会の実現を探索します。

卒業論文テーマ(例)

- 子どもの貧困の解決策としての「居場所型学習支援」
- 遺伝子組み換え食品と食の安全
- 若者が地域活動に参加し続けるには
- 日本の外国人対応一画、自治体に関する分析から一
- 児童養護施設退所者の自立支援策
- SNS時代の新しい性教育情報源

心理社会学科 哲学専攻

学部ガイド P.39

身近な問題をとことんつきつめ、未来を展望する

グローバル化が進行し、ITをはじめとする新しい技術が進み、これまでの価値観や世の中の仕組みが大きく変化しています。こうした時代だからこそ、過去の蓄積を踏まえながら、新たな世界、新たな人間関係を構想する哲学・倫理学の分野に注目が集まっています。明治大学文学部は哲学専攻を2018年に新設し、こうした潮流に対応した学びができるようになりました。本専攻では、東西の哲学を涉猟しながら、現代の諸問題に対して実践的に取り組むカリキュラムを組み、自分の考えを自分のことばで表現する力を養います。

卒業論文テーマ(例)

- ホッブズの国家論において国民の安全は守られるのか
- 柳田國男における日本人の靈魂観
- ハイデガー『存在と時間』における実存論的独我論について
- 脱構築の展開一対話可能性による現代アートへの態度一
- 井筒俊彦の呪術的世界観について
- 哲学プラクティスにおいて「まじく」ことばのように位置づけられるか一「まじく」ことと他者についての関係一

▶ 教員紹介・研究テーマ

※2026年4月1日現在 ※退職等により変更となる場合があります。

日本文学専攻

氏名	研究テーマ
生方 智子	近代・現代の文学。特に、夏目漱石・谷崎潤一郎・現代女性作家の研究
小野 正弘	日本語の歴史。特に、語彙・文法・意味の変遷
甲斐 雄一	中国古典文学、宋代文学と出版文化についての研究
郭 南燕	日本近現代文学、キリスト教文化、宣教師の日本語文学
木下 幸太	日本近現代文学。特に福永武彦、現代作家の作品・同時代の研究
小滝 真弓	平安文学における仏教受容の研究
杉田 昌彦	日本近世文学。本居宣長を中心とする江戸時代の国学
田口 麻奈	国家や社会といった近代的共同性と日本の詩的言語の関係性
竹内 栄美子	日本近代文学。中野重治を中心としたプロレタリア文学や戦後文化運動の研究
牧野 淳司	『平家物語』を中心とする中世文学と寺院資料
山崎 健司	萬葉集を中心とする奈良時代以前の文学
湯浅 幸代	物語を中心とする平安文学、『源氏物語』受容史

英米文学専攻

氏名	研究テーマ
新城 真里奈	英語音声学。ウェールズ英語を中心に、さまざまな英語変種の発音の研究
石井 透	理論言語学。生成文法理論での統語理論、比較統語論
大山 るみこ	映像記号論。映像の「文法」と、言語の関係。文体論
梶原 照子	アメリカ文学・詩・ジャンル論。言説の分析
久保田 俊彦	コンピュータコーパスを利用した言語調査、文体の分析
竹内 理矢	アメリカ南部文学、モダニズム文学、比較文学
竹部 春樹	20世紀以降のアメリカ文学。文体・創作過程・出版文化
塚田 麻里子	戦争文学・紀行文学を含む19・20世紀の英文学
野田 学	英国演劇。演技・演出論および演技身体論
横山 晃	19世紀・20世紀アメリカ文学、都市文学
Watson, Alex	ロマン主義文学(特に注釈研究)、ゴシック文学、英国の映画

ドイツ文学専攻

氏名	研究テーマ
岡本 和子	19世紀から20世紀前半にかけてのドイツ文学、思想、およびベルリン関係
富重 与志生	18世紀文学、特にモーリッツ。ほかに美術史、料理文学、現代文学
新本 史斉	19世紀以降のドイツ語文学、翻訳論、ヨーロッパ越境文学、スイスの文化・文学
福岡 具子	ドイツ・オーストリアの近現代詩、ドイツ語圏ユダヤ系文学、ウィーンユダヤ文化
Mandelartz, Michael M.	18世紀から20世紀までのドイツ文学、ゲーテ、クライスト、文化学
渡辺 学	日独言語文化研究、社会言語学、文体論、異文化コミュニケーション研究

フランス文学専攻

氏名	研究テーマ
奥 香織	フランスの舞台芸術・劇文学、演劇美学の変容、18世紀を中心とした芸術文化、芸術と社会
小島 久和	ルネサンス期の新プラトン主義哲学の研究
谷口 亜沙子	20世紀のフランスを中心とした詩(ポエジー)の研究
田母神 順二郎	フランス近現代詩、フランス現代思想、精神医学史
根本 美作子	20世紀文学、表象文化論
渡辺 惟央	20世紀フランス文学・思想、北アフリカを中心としたフランス語圏の文学と社会

演劇学専攻

氏名	研究テーマ
伊藤 真紀	日本の演劇史。特に近代を中心とした演劇文化史の研究
伊藤 倫	西洋演劇史。特にロシア・アヴアンギャルド演劇の研究
井上 優	西洋演劇史。特にルネサンスから近代にかけての演劇の表現モードの変遷
大林 のり子	演出家の役割・上演分析による越境的な演劇活動の再考
矢内 賢二	日本演劇史。歌舞伎を中心とする演劇・芸能および周辺文化の研究

文芸メディア専攻

氏名	研究テーマ
伊藤 氏貴	近現代の文学・藝術とその背景となる思想
内村 和至	日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テクスト
佐伯 和香子	日本古典文学の民俗学的研究。口承文芸、お伽草子
相良 剛	〈読む・書く〉を、出版実務経験から探索。(本)の新しい形を研究
中江 桂子	文化社会学・メディアの社会・社会心理と文化史
能地 克宣	日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学

日本史学専攻

氏名	研究テーマ
落合 弘樹	近代史。幕末・維新期の政治史の研究
清水 有子	近世史。織豊政権、江戸幕府の政治外交史の研究。鎖国の形成、キリシタン問題など
高橋 一樹	中世史。荘園制と交通体系、訴訟制度、文書論
富山 仁貴	現代史。戦後の社会運動史、地域史、教育史の研究
中村 友一	古代史。氏族を中心に、政治史、法・制度、地域史を見直す研究
野尻 泰弘	近世史。藩領を中心とした地域史の研究
松山 恵	近代史(文化史)。空間と社会の関係性から日本都市の特質を解明
三浦 直人	近代史(文化史)。人名を通して、個人・自己の問題を考察
山田 朗	現代史。軍拡と膨張の論理、戦争の実態の解明

アジア史専攻

氏名	研究テーマ
江川 ひかり	オスマン帝国の政治・経済・社会・文化を総合的に研究
櫻井 智美	中国近世史。特にモンゴル帝国時代の政治・社会・文化の研究
鈴木 剛	朝鮮近世史。朝鮮半島を中心とする東アジアの外交関係・国際交流の歴史を研究
高田 幸男	20世紀の中国・東アジアの政治・社会・教育の変容を考察
高村 武幸	中国古代・中世の政治と社会。簡牘の分類・再利用、「書く」文化史

西洋史学専攻

氏名	研究テーマ
青谷 秀紀	中世ネーデルラント都市の宗教社会史
伊丹 聡一郎	東欧ロシア中近世史。特に14-15世紀ルーシにおける政治権力の辺境進出過程に関する研究
斎藤 祥平	近現代ロシア史。特に1917年のロシア革命以降の亡命者による活動や思想についての研究
谷口 良生	近現代フランス史。特に近代フランスの議会に関する政治・社会・文化史研究
古山 夕城	ギリシア古代史。周縁地域におけるボリスの政治社会構造
水野 博子	オーストリア・ヨーロッパ近現代史。ネイション・エスニシティ・人種の問題を政治文化や記憶文化の領域から研究
駒瀧 秀一	初期アメリカ史。主に17-18世紀イギリス帝国による北米植民の過程の研究

考古学専攻

氏名	研究テーマ
阿部 芳郎	縄文時代の生業と社会構造や居住活動に関する研究
佐々木 憲一	関東の古墳を素材に、周縁地域の国家形成に迫る研究
鶴来 航介	弥生時代における資源利用の地域構造に関する研究
藤山 龍造	先史時代の環境変化と資源開発に関する研究
若狭 徹	集落・墓・耕地などの遺跡群から古代社会を立体的に復元する研究

地理学専攻

氏名	研究テーマ
荒又 美晴	都市景観に関する社会地理学的研究
梅本 亨	北半球高緯度の植生景観および山地気候の研究
大城 直樹	地域アイデンティティの形成と民俗地理の分節化に関する研究
川口 太郎	人々の暮らしから都市の成り立ちやあり方を考える都市地理学研究
佐々木 夏菜	山岳湿地の形成と発達に関する地形学的研究
山本 大策	生活環境や経済機会の変化と地域的対応に関する研究

臨床心理学専攻

氏名	研究テーマ
岡安 孝弘	健康心理学。心理的ストレスと心の健康に関する研究
加藤 尚子	心理コンサルテーション。虐待を受けた子どもの養育および心理支援、心理療法、トラウマ、愛着臨床
川島 義高	精神疾患を抱える方々への臨床心理学的支援、自傷・自殺予防
佐々木 掌子	多様な性(セクシュアリティ)に対する臨床心理学的支援
高瀬 由嗣	投射法心理検査の分析および解釈法の精緻化
竹松 志乃	イメージを媒介とする心理療法。デス・エデュケーション
濱田 祥子	青少年の発達上の諸問題に関する研究
山登 敬之	精神科医療機関における心理臨床の可能性(子どものこころクリニック院長)

現代社会学専攻

氏名	研究テーマ
宇田 和子	公害・環境病の被害と生活回復に関する研究
大畑 裕嗣	日韓の市民活動と市民運動に関する研究
青農 英明	ナショナリズム、多文化共生、移民・難民問題の研究
内藤 朝雄	いじめ、職場の迫害、DV、民族紛争、自由な社会
平山 満紀	ジェンダー、セクシュアリティ、身体の現代的変容

哲学専攻

氏名	研究テーマ
池田 喬	現象学を中心とする現代哲学・倫理学
井上 貴恵	9-14世紀のイスラム神秘主義思想(スーフイズム)
合田 正人	19・20世紀フランス思想、ドイツ思想、近代ユダヤ思想史
坂本 邦輔	西欧ルネサンスと近代の哲学史・科学史
志野 好伸	日中比較思想、近現代中国における西洋哲学受容

教養科目

氏名	研究テーマ
田中 伸明	スポーツ心理学。特にテニスプレイヤーのメンタリティについて
水村 信二	ウェルネス教育に関する研究。スポーツクライミングに関する研究
宮脇 梨奈	ヘルスコミュニケーション、健康情報の普及・啓発に関する研究
諸富 祥彦	生きる意味の悩みの支援。学校カウンセリング
山田 亨	人類学(文化・言語)、法人類学、公共政策

資格課程科目

氏名	研究テーマ
青柳 英治	図書館専門職員の人的資源管理に関する研究
伊藤 貴昭	説明行為が学習・理解に及ぼす影響に関する実践研究
伊藤 直樹	思春期・青年期における学校での適応に関する研究
井上 由佳	国内外の博物館の社会的役割の考察と人材育成・学芸員養成の国際比較研究
太田 知実	アメリカにおける教師教育の制度と実践に関する研究
金子 幹夫	中学校・高等学校における経済教育の再構成に関する研究
駒見 和夫	博物館教育の役割とインクルーシブなミュージアムの構築に向けた研究
齋藤 孝	身体を基盤とした教育メソッドの開発・実践
齋藤 泰則	レファレンスサービスと情報要求に関する研究
佐藤 英二	脱産業化社会において数学と科学を学ぶ意味に関する史的考察
杉山 晋平	多文化共生、地域づくりと社会教育に関する実践研究
関根 宏朗	人間形成における「自律」の問題についての教育哲学的研究
林 卓克	教科外教育における体験活動に関する実証的研究
平川 景子	女性の主体形成。社会教育実践研究。学習支援者の力量形成
三浦 太郎	図書館史。特に近現代日本の図書館制度に関する考察
山下 達也	近代日本および植民地・占領地における学校教育史研究

情報コミュニケーション学部

School of Information and Communication

現代の情報社会を解き明かし、
一つ先の未来を描く

MESSAGE

主体性を持って学び、
自らの「問い」を発見・解決する4年間

情報コミュニケーション学部における教育と研究を支えるのは、「社会の現在(いま)を捉える」、「多様で学域横断的なアプローチ」、「創造と表現」という3つの大きな柱。学際性と多様性を重視するのが本学部の特徴であり、学びの対象が複数の学問領域を横断するため、学生一人ひとりの興味・関心に基づいた学びが可能であるところが魅力です。ぜひ、情報コミュニケーション学部での多種多様な学びを通して、自らの「問い」を発見してください。問いの解決を目指して主体的に学ぶ4年間で得た糧は、きっと社会に出たら活躍する素養を育むことにつながるはずです。

学部長 阿部 力也

PROFILE

1991年中央大学法学部法律学科卒業。1995年明治大学大学院法学研究科公法学専攻博士後期課程単位取得退学後、明治大学法学部専任助手。1998年同大学短期大学(当時)専任講師。2005年同大学情報コミュニケーション学部専任助教授。2008年同大学法科大学院法務研究科専任准教授。2011年同大学法科大学院法務研究科専任教授。2019年明治大学情報コミュニケーション学部専任教授(法務研究科兼籍)。2020年兼籍解消、現在に至る。著書に『共同正犯の構造』、『刑法総論講義案』など多数。博士(法学)。

まだ見ぬ問いを、解き明かす

明治大学情報コミュニケーション学部の強み

情報社会を読み解き、 価値を創造する

1 社会・人文・自然科学を横断する 「学際的な学び」

多様な分野を越えて学ぶことで、複雑な社会の仕組みを多角的に理解します。社会科学を基盤に、人文科学の洞察と自然科学の知見を結び合わせ、新しい視点を育てます。



2 自ら「問い」を立てる ゼミナール教育

1年次から少人数のゼミで、自ら課題を見つけ、仲間と議論しながら考えを深めます。思考を磨くプロセスを通じて、自分だけの研究テーマを見出します。



3 情報と社会をつなぐ 実践的プログラム

フィールドワーク、ワークショップ、メディア制作などを通して、情報を社会にどう生かすかを実践的に学びます。自ら発信し、社会とつながる力を養います。



4 多文化社会で学ぶ 国際的視野

学部間協定留学や「世界のキャンパスから」など、多様な文化・言語に触れる機会が豊富です。世界と地域の課題を歩き来しながら、グローバルな視点を育みます。



5 多様な個性が交わる、 自由で開かれた学びの場

ジェンダー、言語、宗教、価値観の違いを越えた共生的な環境で、互いの個性を尊重しながら学び合います。自由な発想と創造的な表現が、新たな価値を生み出します。



柔軟なカリキュラムの中で幅広い専門性を持った教員と「自分」を見つける4年間

「問題を見出し、解決する4年間」を実現するために、学際的知識を修得することが可能なカリキュラムとなっています。1・2年次で様々な学問に触れ、その中で自分が興味を持った学問分野を3・4年次でしっかりと深めることができます。

Curriculum	4年間のカリキュラム						
	1年次	2年次	3年次	4年次 必修8単位			
ゼミナール科目群	基礎ゼミナール		問題発見テーマ演習A・B	問題分析ゼミナールI・II 問題解決ゼミナールI・II 卒業論文／卒業制作			
学際科目群	情報コミュニケーション学入門A・B		必修4単位	情報コミュニケーション学			
専門科目群	社会科学 現代社会を理解する知識を学び、リーダーシップを発揮できる力を養う。	人文科学 異文化を理解する知識を学び、批判的に思考する能力を養う。	自然科学 論理的な思考方法を身につけ、データを重視する思考力を養う。	社会システム 現代社会を理解する、高度かつ専門的な知識を学び、国際的課題に取り組む能力を身につける。	文化と表象 異文化理解のための専門的な知識を学び、高度なコミュニケーション能力を発揮する力を身につける。	人間と環境 新しい物事に挑戦する意識を高め、専門分野に関し高度な知識を身につける。	必修64単位
外国語科目群	英語	必修6単位					
	選択外国語	ドイツ語/フランス語/スペイン語/中国語/韓国語/タイ語/から選択 (※外国人留学生は日本語を選択)		必修4単位			
研究方法・表現実践科目群	調査・実践をおこなうための能力を身につけ、プレゼンテーション能力を発揮する力。						
	情報リテラシー科目	日本語表現科目	クリエイション科目	リサーチリテラシー科目	必修10単位		
その他	ウェルネス科目群	キャリアデザイン科目群	情報リテラシー科目群	全学共通総合講座	海外留学科目群 ※留学先で修得した単位の認定含む		
学びの特徴	多様な学問を学ぶための基礎的な訓練とともに、多様な分野に触れ、学際的な学びのベースを築きます。単に知識を蓄えるのではなく、課題を見出し、批判的に考察することで、自らの意思を形成します。		これまでの学びを基盤に、自らの関心に則した問いを立て、専門科目やゼミで学びを深めます。4年次は、4年間の学びの集大成として、研究の「現場」に身を置き、多様な人々と協働することで、知識を実践に移し、課題に回答する提案や表現を形にし、成果を社会に発信します。		合計必修124単位		

詳細は学部ガイドp.05へ

詳細は学部ガイドp.10へ

▶ 学部独自の資格取得支援

社会調査士資格

詳細は学部ガイドp.25へ

社会調査を実施できる知識と技能を有していることを証明する資格です。明治大学では情報コミュニケーション学部の学生のみが取得できる資格です。学部設置の授業を履修し、卒業することで取得することができます。



▶ 学部独自の留学制度

短期留学プログラム:国際交流

詳細は学部ガイドp.21へ



1週間～2カ月間の語学向上、異文化交流、キャリア教育などをテーマとした短期プログラムです。

長期留学:学部間協定留学

詳細は学部ガイドp.22へ

情報コミュニケーション学部が独自で協定を締結している大学・学部と半年または1年間交換留学生として留学できる制度です。



注目の学び



学際学部ならではのゼミナールイベント「研究交流祭」。「研究交流祭」は学部所属ゼミナールによる研究・活動成果を発表する学部イベントです。各ゼミは時間をかけて準備をすすめ、各ブロックの最優秀賞を目指し、発表に臨みます。普段かかわることの少ない他のゼミナールの発表を聞くことで、様々な分野のゼミナールの学びが交差し、「新たな気づき」や学びが深まる機会となっています。

Student Message

学生からのメッセージ



興味を絞らず、多様な学びで未来を拓く

久保田さくらさん 情報コミュニケーション学科3年 静岡県立静岡高等学校卒業

将来の目標を一つに絞りたいくないという思いから、「学びたいことがすべて学べる」情報コミュニケーション学部を選びました。この学部では、経済学、経営学、言語学、プログラミング、法学など幅広い学問分野を横断的に学べます。また、必修単位が比較的に少ないため留学にも挑戦しやすい環境が整っています。この自由な環境のおかげで、留学を通して将来の目標を明確に定めることができました。現在は、英語音声学や英語語用論、心理統計など、興味に基づいた専門的かつ発展的な授業を幅広く履修しています。最終的には、ITやコミュニケーションの力を駆使し、国内外の社会課題解決に貢献することを目標としています。

Alumni Message

卒業生からのメッセージ



多角的な視点で、お客様の夢をカタチに

石田 修也さん 住友林業株式会社 住宅事業本部勤務

情報コミュニケーション学科 2024年卒業 (東京都立武蔵野北高等学校卒業)

「人の喜びや感動にかかわることを仕事にしたい」という思いから住宅業界を志望しました。在学中に培った「多角的な視点から問題に向き合うこと」は、住まいづくりを検討されているお客様の問題や不安に対し、どの角度からのアプローチが満足度向上につながるかを検討する際に不可欠です。お客様の要望を間取りという形で実現する現在の仕事でとても役立っていますし、家づくりを「あなたに任せます」と言っていた瞬間や、感謝の言葉をいただいた時には大きなやりがいを感じます。今後は顧客ニーズに合わせた提案ができるよう、相続や土地活用、節税対策など多岐にわたる分野で研鑽を積んでいきます。

▶ 4年間の学問・研究

入学後は、多様な学問を学ぶための基礎的な訓練とともに、「情報コミュニケーション学入門A・B」などを通じて多様な分野に触れ、学際的な学びのペースを築きます。幅広い授業やゼミでの対話、フィールドワークを経験し、世界や地域の課題に目を向けます。異なる文化や価値観に触れることで、自分を相対化し、社会の広がりを実感する第一歩となります。こうした体験は、学びへの関心を深めるとともに、自らの将来像を考えるきっかけにもなります。

1年次で培った基礎をもとに、社会・人文・自然科学を横断しながら複雑な社会現象を多角的に分析する力を養います。ゼミや講義では、単に知識を蓄えるのではなく、課題を発見し、批判的に考察することで、自らの意見を形成します。現代の社会を読み解き、多様な視点を実践的に獲得することで、課題への理解を深め、解決への基盤を築きます。

これまでの学びを基盤に、自らの関心に即した問いを立て、専門科目やゼミで学びを深めます。研究方法を学び、調査や分析を重ねる中で、既存概念にとらわれず問題を検証し、自分なりのテーマを確立します。討論や共同研究を通じて多様な意見に触れ、視野を広げながら思考を練り上げることで、社会や世界に対して新たな切り口を提示できる力を身につけていきます。

卒業論文や卒業制作などに取り組み、学びの集大成として成果を社会へ発信します。研究の「現場」に身を置き、多様な人々と協働することで、知識を実践に移し、課題に回答する提案や表現を形にします。そこで得た経験は、新たな価値を創造する力を鍛え、次のステージに進む自信となります。急速に変化する社会の中で、主体的に行動し、未来を切り拓く人材として羽ばたくことを目指します。

卒業
社会へ

社会とつながり、
「価値」を創造・発信する
4年次

自分だけの
「問い」を深める
3年次

社会を読み解く
「視点」を手に入れる
2年次

世界の広さを知る
1年次

▶ 授業レポート

情報社会と経済 山内 勇 教授



SNSや生成AI、DXなど、私たちの生活を変える「情報化」がテーマです。情報化とはいったい何なのか、ビジネスモデルや雇用、格差との関係性、そしてそれらの背後にあるメカニズムを経済学の視点からじっくり読み解き、望ましい情報社会のかたちを考えていきます。

異文化理解 根橋 玲子 教授



グローバル化が進む現代。異なる背景を持つ人々との出会いは、楽しさや新しい発見があれば、驚きや不快感を覚えることもあるでしょう。異文化接触により起こる様々な現象について、その心理的メカニズムや社会的要因を皆さんと考えたいと思います。

認知科学 I・II 石川 幹人 教授



認知科学では、人間のものの見方や考え方の仕組みを学びます。人間の認知を、類似した脳を持つサルと比較したり、人工知能と比較したりしながら解説します。特にウソやだましのトピックを取り上げ、理解を深めます。地球環境や社会環境と人間の関係が見えてきます。

▶ Pick up

英語コミュニケーション能力特別強化プログラム「SPICE」

情報コミュニケーション学部では、国際社会で活躍できる英語力とコミュニケーション力を育てるため、少人数制の特別英語クラス「SPICE」(Special Program for Information & Communication in English)を設置しています。単なる会話だけでなく、内容のある議論ができる力を身につけ、英語で自分の考えを伝えられる学生の育成を目指しています。

短期・長期留学に関する
アドバイスなども提供し、
海外を目指す学生をサポートします。

一詳細は学部ガイドP.06へ



コミュニケーション能力重視・ 内容中心(content base)の授業



ネイティブ・スピーカー・ 留学経験有教員の指導



▶ 教員紹介・研究テーマ

※2026年4月1日現在 ※退職等により変更となる場合があります。

科目	氏名	研究テーマ	メッセージ
犯罪と法、現代型犯罪と刑法	阿部 力也	色々な犯罪にみる「現代的特徴」の考察 共犯の比較法的考察(とくに日本法とドイツ法)	色々な「もの見方」のなかから、「法的な思考」を身につけるメリットに気づいて欲しいと思う。 意外に、皆さんにとって現代社会を生き抜くための「方策」になるのでは？
科学リテラシー、脳科学、認知科学	石川 幹人	人間の認知機能を生物進化の歴史に位置づけ、 様々な心理現象の背景を探る	人間と社会、それらを取り巻く地球環境など、 大きなことを見通す力を養ってください。
知的財産法、ビジネスと法	今村 哲也	情報社会における知的財産法上の政策課題の検証	情報社会を生き抜くためには知的財産法に関する知識と理解が必要です。
生命思想史	岩淵 輝	生命論(生命とは何か) 生命思想史 グスタフ・フェヒナーの精神物理学	好きなこと、本当に大事だと思うことを、追究しつづけてください。
ジェンダー・マネジメント	牛尾 奈緒美	企業で働く人々がジェンダーの枠を超えて活躍できる場・方策を考察 するなど組織のダイバーシティ推進に関する研究	幸せなキャリア、自分にあった生き方とは何か この4年間でじっくり考えてみませんか。
情報社会論	江下 雅之	メディア環境とライフスタイルの相互作用的な関係	実用的な知識は社会人になればイヤでも修得するもの。 大学生の時代こそ「役に立たないこと」に熱中しましょう。
政治学、政治とメディア	川島 高峰	2050年の日本国/日本人/日本文化の研究	地球規模で考え、日本の歴史と経緯を知り、未来を構想しよう。
情報政策論、現代アメリカ政治論	清原 聖子	アメリカ大統領選挙、ネット選挙、フェイクニュースなど	メディアやソーシャルメディアを切り口に、政治学的な視点から現代社会の諸問題を 捉え、解決策を考えてみませんか。
超域文化論、地域文化論	高馬 京子	クリティカル・ファッション・スタディーズ:メディアにおいて構築/伝達される ファッション(服飾流行)とジェンダー像	情コミでの様々な学びや経験を通して、 視野を広げ、深め、好奇心、探究心を持って自分の夢をみつけてください。
リスク社会論	小林 秀行	災害社会学、災害情報論、リスク社会論。 とくに、住民主体の災害対策や災害復興に関する研究	大学は、新たなものへと触れる機会に溢れた場所です。 多くに触れ、学び取り、あなただけの夢や志を見つけていきましょう。
家族社会学	施利平	東アジアにおける家族・親族関係の変容と持続	知力とともに気力、体力とコミュニケーション力を身につけよう!
国際経済論	島田 剛	開発経済学、途上国への援助、国内の経済格差、福島復興	格差が世界的にも国内でも拡大しています。 どのような解決方法があるか考えていきましょう。
現代行政と法	清水 晶紀	行政活動の不作為に対する法的統制、原子力行政の 実態分析とその法的統制	情報コミュニケーション学部だからこその得られる「何か」があるはず。それ を一緒に考え、そして掘り取りましょう。
メディア批評	鈴木 健	カルチュラル・スタディーズ、メディア批評、政治コミュニケーション論	現代社会をポップ・カルチャーと読得コミュニケーション論を通じて読み解く方法 を学びましょう。
国際関係論	鈴木 健人	国際安全保障、冷戦史、現実主義の国際政治理論	厳しい現実を冷静に分析し前向きに問題解決を考える、 たくましさを感じよう。
情報社会と教育	鈴木 雅博	学校組織における教師間相互行為	学ほどに問いが深まり、問いが深まるとそれまでの自分の考えが揺らぎます。 自分を揺さぶる学びをしてみませんか。
歴史学、社会文化史、 異文化コミュニケーション史	須田 努	日本近世・近代の社会文化、民衆暴力	歴史的センスを身につけ、よりよい将来を模索するための知を創り上げましょう。
比較文学・比較文化	関口 裕昭	ドイツ文学、ユダヤ系文学、日独比較文化論	異なるものとの出会いを通して、自分の世界を広げ、深めていきましょう。
哲学	大黒 岳彦	「メディア」と「情報」の思想・哲学的研究	自分だけの「問題」を見つけ、それにとことんこだわることを。
組織論、組織と情報	竹中 克久	組織社会学、組織文化研究(組織シンボリズムおよび組織美学)	大胆な発想から精緻な論理を組み立てる楽しさを伝えていきたいと考えています。
憲法、個人と国家、人権と政策	田村 理	フランス憲法史、フランス革命と憲法、日本の政治文化と立憲主義	与えられたルールにのってればよい時代は終わりました。 社会にアピールして居場所をつくる発信力を大学で身につけてください。
公共政策	塚原 康博	情報化・少子高齢化・グローバル化時代の公共政策	現代社会を「論理的」かつ「有機的」に考える力を身につけてください。
ネットワーク社会論	中里 裕美	地域通貨研究、経済社会学、社会ネットワーク論	大学生活を通して、自分が夢になれる何かを見つけてください。
異文化理解・異文化間コミュニケーション	根橋 玲子	異文化間コミュニケーション・多文化共生	大学では、様々な背景の人々との出会いや学びを通して、多文化に生きることを体感して ください。
身体表現論	波照間 永子	(1)身体技法および舞踊技法の研究 (2)無形文化財のアーカイブ化(記録・保存)(3)現代芸術の創造	様々な体験を重ね、試行錯誤しながら、あなた自身の「ぶれない軸」(強み)を見つけて みましょう。
日本文学、日本文化論	日置 貴之	日本演劇研究:江戸時代後半から明治時代の 演劇(歌舞伎)における災害や戦争の描写	「研究」ということを堅苦しく考えず、身のまわりのどんなことでも研究対象になるのだと思っ てください。自分が関心を持つ事柄について、少しじっくり考えてみましょう。
社会学	富本 真也	批判的社会理論	現代という時代、日本という社会を超えていく考え方を、大学時代で身につけよう。
情報社会と経済、情報産業論	山内 勇	日本企業のイノベーション活動、知的財産制度に関する実証研究	情報社会やデータエコノミーで活躍できる「人間力」を養いましょう。 データやAIなど素材や道具だけではイノベーションは起こりません。
組織コミュニケーション	山口 生史	組織コミュニケーションと組織行動学	組織の中の人間関係と情報交換の適切性を学ぶことは皆さんの将来に役立つと思います。
多文化と相互理解、地域文化論	横田 貴之	中東地域研究、イスラーム主義運動研究	大学生活を通じて、自分の人生における「推し」を見つけよう。
メディア教育論	小田 光康	ジャーナリズムと戦略コミュニケーションの理論と実践に関する研究	メディアを通じて情報発信するメディアリテラシーが求められる現在、 メディアの現在進行形を一緒に学びましょう。
意思決定論	熊田 聖	ビジネスにおける交渉での満足できる合意の要因は何か	あなたの中の理系と文系の知識を統合すると、 社会の問題をじっくり考えられるようになります。
情報と経済行動、不確実性下の人間行動	後藤 晶	行動経済学・実験経済学、協力的行動・利他的行動に関する研究	大学時代は様々なことに「悩む」時代です。 よく悩み、いろんなことにチャレンジして、自分の新たな可能性を切り拓きましょう。
市民社会と法、財産と法	齋藤 航	民法、特に契約責任および不法行為責任に関する研究	法律を学ぶ楽しさ、ルールに基づいて問題を解決する面白さを知ってもらいたいと思っ ています。
言語学	坂本 祐太	言語理論に基づく「ことば」の研究	コミュニケーションの代表的なツールである「ことば」が持つ様々な不思議を 一緒に紐解きましょう。
ジェンダー論、ジェンダーと社会	田中 洋美	メディア、テクノロジーの社会・文化分析	枠にとらわれない思考力を鍛え、自らを自由にしていきたいと思います。
日本語表現、言語対研究、 メディア教育論	内藤 まりこ	日本文学・文化研究、批評理論を用いた比較文学・文化研究	文学や映画等の文字や映像で表現された作品の分析を通じて世の中を少し異なる角度 から眺める方法を身につけるお手伝いをします。
人類学、身体と意識、 不思議現象の心理学	蛭川 立	心身問題への人類学的アプローチ。儀礼とコスモロジーの研究	世界には不思議がいっぱいです。よく観察し、よく考察しましょう。
ジェンダーと法	堀口 悦子	「ジェンダー」視点でコミュニケーションから法制度までを分析	「ジェンダー」を知っている人も知らない人も、一緒に学び、考えてみましょう。
プログラミング実習	山崎 浩二	LSIの故障検査	学ぶこと、考えることを大いに楽しみましょう。よろしくお願致します。
社会心理学	脇本 竜太郎	ファン行動、自己防衛、格差の合理化にかかわる心理メカニズム	心と社会の相互作用という視点から、人間を多面的に理解する姿勢と スキルを身につけましょう。
情報社会と安全	和田 悟	法分野を中心とした情報技術応用	いそがず、じっくりいきましょう。
国際開発論	高橋 華生子	新興国・途上国の都市におけるジェントリフィケーションと住環境の空間 格差に関する研究	フットワークを生かして、経験からの学びと遊びを 一緒に探っていきましょう。
英語コミュニケーション、英語音声学	ドウ、ティモシーJ.	第二言語修得	Don't be discouraged by your mistakes - they are your biggest opportunities to learn and develop!
都市情報論、人文地理学	中川 雄大	都市と空間の社会学	都市はもっとも身近な社会の一つです。「今・ここ」を相対化して、社会を多角的に捉える力 を一緒に養っていきましょう。
紛争解決システム論	富田 泰	現代社会における私的紛争の解決をめぐる制度と手続きの考察	情報コミュニケーション学部でもとに学びましょう。
ウェルネス、ウェルネス・スポーツ	竹崎 一真	スポーツ社会学、身体とジェンダーに関するカルチュラル・スタディーズ	学びは頭で考えることだけではなく、身体的な経験を通して得る知識=身体知という言葉があります。身を持って新 しい知と出会い考え、またこれまでの当たり前を問い直すような、そんな学びの地平を切り開いていきましょう。
音楽論・音楽表現論	増野 亜子	東南アジアの伝統芸能・音楽の調査研究	正解への近道を知ることよりも、時間がかかっても自分で問いを立て、答えを探し、色々な人や物事に 出会って寄り添いながら進んでいく方がずっと面白い。それぞれの問いを追求する探検家になろう。
社会調査法、質的調査分析法、社会調査実習	大島 岳	ライフ/オーラル・ヒストリー研究、社会的苦悶とレジリエンス (特にHIV/エイズ・性的マイノリティ)	夢中になって打ち込める何か、行ったことのない道を歩く勇気を持つこと。社会学は、世界 と自分の人生をよりよくするための終わらぬ挑戦です。一緒に学んでいきましょう。

国際日本学部

School of Global Japanese Studies

「世界の中の日本」を自覚して、
世界を舞台に活躍できる人材を育成

MESSAGE

国際的な学びから広い視野を。
あなたらしい「個」を磨ける環境

国際日本学部の教育目標は、世界から日本を、日本から世界をとらえる国際的な視座を持った人材を育てること。その基盤となるのが、国内外の社会や文化を多様な視点から学べる科目群と、学生一人ひとりの興味関心に応じた柔軟なカリキュラムです。実践的な英語教育やユニークな留学プログラム、ポップカルチャー研究など、広い視野と柔軟な思考力を培う環境が整っています。卒業生の就職先は幅広く、グローバルに活躍する人も多くいます。現代社会ではインターネットやAIの普及により、「最速」「最適」が重視されがちですが、学生の皆さんには、遠回りを恐れずに試行錯誤を重ねてほしいと思います。自らをアップデートさせる姿勢が、あなたらしい「個」をつくるはず。皆さんの挑戦を応援しています。

学部長 宮本 大人

PROFILE

東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻博士後期課程単位取得退学。北九州市立大学文学部准教授を経て2010年明治大学国際日本学部准教授に就任。2021年より同教授。研究テーマは日本の漫画史、専門科目は「日本漫画史」、「アニメーション文化論」。

日本と世界をつなぐ

明治大学国際日本学部の強み

日本と世界の文化・社会を 幅広く学べるカリキュラム

1 多くのネイティブを含む
経験豊富な教員による、
少人数制の充実した外国語教育



2 留学(短期・長期)や
海外インターンシップ等、
留学プログラムが充実



3 日本の社会システムや、
伝統文化から、現在の
ポップカルチャーまでを
多角的に学ぶ



4 世界諸国の社会経済や
思想文化、国際関係を
幅広く学ぶ



5 大学での学びや研究に
必要となる日本語力の養成



6 世界中から受け入れた
外国人留学生と日本人学生
多彩な交流機会



7 英語で行われる授業も充実、
英語で学位を取得できる
English Trackも設置



自分の言葉で日本の魅力を 世界に発信できる国際人に

グローバル化時代にふさわしい人材を養成するため、集中的な英語教育と国際教養教育に力を注ぐとともに、伝統的な日本文化に加え、今日世界の注目を集めている現代日本文化、そしてその発信基盤である日本語、および企業・産業・社会などの社会システムについて、魅力ある教育を行います。

▶ 学部が行う学習支援・助成制度

TOEFL/TOEICの資格取得を支援 詳細は学部ガイドp.06へ

留学や就職活動で役立つ資格の取得を促進するため、受験料の一部を補助します。TOEFLは1年次に1回、TOEICは3年次以降に2回まで補助の対象となります。

English Conversation Hours 詳細は学部ガイドp.05へ

ネイティブ・スピーカーの教員が、授業以外の時間で学生の相談に乗ります。日々の授業の疑問点を質問したり、TOEFLなどの試験対策をしたりすることができます。

▶ 学部主催の留学制度

海外留学プログラム 詳細は学部ガイドp.07へ

国際日本学部では約4人に1人が在学中に留学を経験します。留学中に修得した単位の認定制度や必修科目の取り扱いの特別措置など、留学に参加しやすい環境を提供しています。

国際日本学部 学部間協定校 詳細は学部ガイドp.09へ

アメリカのフロリダ州立大学でのディズニーマジック・インターンシッププログラムのほか、シンガポール国立大学など合わせて15の大学等と協定を締結しています。

Curriculum 4年間のカリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次
学びの特徴	英語の必修科目を中心に学修を進めつつ、必修の初年次教育科目で大学での研究に必要な基礎力を身に着けます。	基礎を土台に7つの専門領域の科目を幅広く学び、自身の関心に基づき演習科目へ接続する準備を進めます。	演習科目での研究が本格化し、フィールドワークや国際交流を通じた実践的な調査・考察で研究テーマを確立します。	自分なりの“国際日本学”を確立し、これまでの学びを社会で活かす準備をします。学びと研究の集大成として、卒業論文や卒業制作に取り組む学生は、それらを形にしていきます。
英語科目	1年次必修科目:週6回 English(Speaking) English(Listening) English(Reading & Writing)	2年次必修科目:週5回 Research Paper Writing Speech & Presentation Advanced Reading & Writing Advanced Speaking & Listening TOEIC Preparation	Advanced Level TOEIC Current English Discussion & Debate Integrated English	Literature Reading Practical Drama Business English など
第二外国語科目	ドイツ語/フランス語/中国語/スペイン語/韓国語			
日本語科目	留学生のための学術日本語 習熟度別(1~7レベル)の日本語科目(English Track学生と交換留学生のみ)			
国際日本学専門科目	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7つの研究領域から 自分の興味・関心にあわせて 学びを選択</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ポップカルチャー 研究領域</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">社会システム・ メディア研究領域</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">グローバル 共生社会研究領域</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">国際文化・ 思想研究領域</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日本文化・ 思想研究領域</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日本語研究領域</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">英語研究領域</div> </div>			
総合教育科目	初年次教育科目(必修科目) 国際日本学基礎演習/アカデミック・ ICTリテラシー/学術的文章の作成			
演習科目	国際日本学実践科目/国際日本学部特別講座/国際日本学特別演習/社会連携科目 など 演習A~D(一部は2年次から履修可能)			

注目の学び「少人数教育」



アクティブラーニングで
主体的な学びを後押し

グループディスカッションやフィールドワークなど、学生が主体的に考え、発言し、行動する学びの機会を多く設けています。一人ひとりに発言や発表のチャンスが多く与えられ、実践的なスキルを着実に磨くことができます。

Student Message

学生からのメッセージ



世界と日本の“架け橋”を目指して

小室 珈夏斗さん 国際日本学科2年 茨城県立水戸桜ノ牧高等学校卒業

国際日本学部を志望した理由は、実践的な英語力を養える少人数教育に強い魅力を感じたからです。必修の英語科目はもちろん、授業以外でも英語ネイティブの教員に相談できる「English Conversation Hours」に積極的に参加することで、苦手だった英語での自己表現が大きく伸び、自信を持って意見を述べられるようになりました。また、英語学習に軸を置きながら、ポップカルチャーや日本文化について学ぶことで、新たな視点から日本の良さを再認識できたことも、この学部ならではの収穫です。今後は留学にも挑戦し、英語を通して日本と世界をつなぐ役割を担える人材を目指します。

Alumni Message

卒業生からのメッセージ



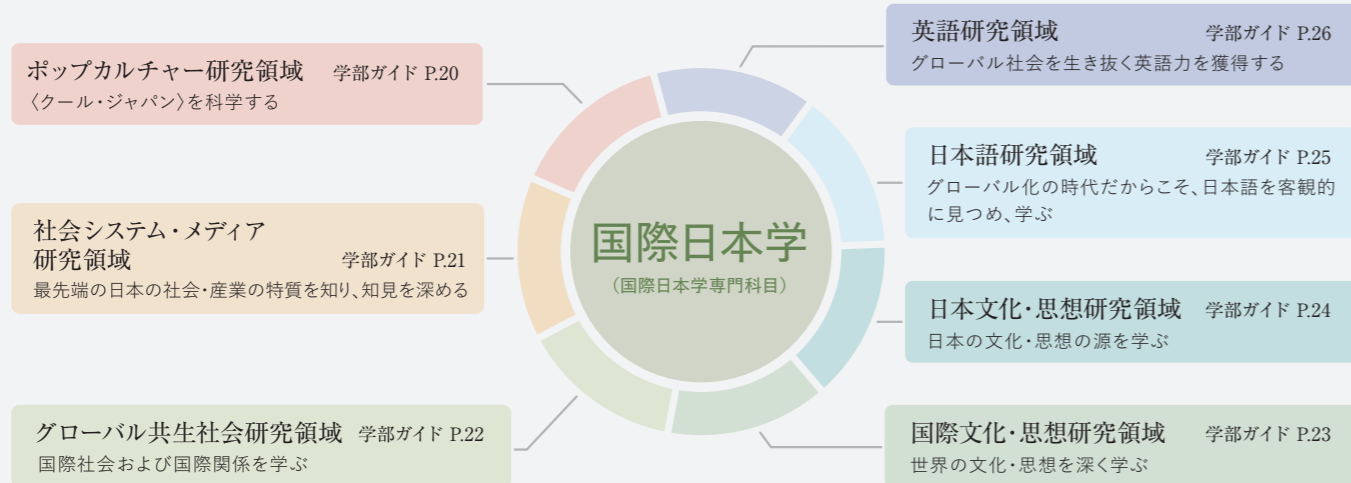
日本の競争力をITで支える

石川 明香里さん 株式会社NTTデータ システムインテグレーション事業本部
国際日本学科 2024年卒業 (千葉県立柏高等学校卒業)

日本の文化や社会の仕組みへの関心から国際日本学部に進学しました。在学中、対話型の授業に積極的に参加し、教員や先輩にも臆せず自分の意見を発信する力を養いました。また、学ぶ中で「ものづくり大国」と呼ばれた日本の国際競争力が特にIT分野の遅れにより低下していると感じるようになりました。ITを通じて日本の競争力向上に貢献したいと考えるようになったことが就職の決め手です。在学中に身につけた意見発信力は、大規模プロジェクトで多様な立場の関係者と調整する際に役立っています。将来は国際日本学部で培った英語力も活かして海外案件にも挑戦し、日本の競争力のさらなる向上に尽力していきたいです。

研究領域

日本の産業・社会・文化の特質を深く知り、世界の文化・思想と国際関係を幅広く学ぶことを目的に7つの研究領域に科目を区分して構成しています。



授業レポート

アフリカと近現代世界

溝辺 泰雄 教授

今のアフリカを取り巻く諸問題を理解するためには歴史的視点とグローバルな視点が不可欠です。この講義では、学期ごとにフェアトレードや多文化共生、民主主義、開発支援などのテーマを設定し、アフリカ各地の事例を取り上げて学びを深めています。

目指す将来イメージ

- ・マスコミ関係(テレビ・ラジオ局、新聞社)、出版関係、メディア産業、インターネット関連業種
- ・旅行・交通業(航空・鉄道・海運)、観光開発関連産業、貿易商社関連業種、金融、メーカー
- ・コンテンツ産業、文化芸能関連業種、知財関連業種、広告産業、映画産業、コンピュータ・グラフィックス関連業種
- ・大学院進学、外資系企業、政府系国際機関

TOPICS 国際日本学部の留学制度

高度な国際感覚を育てることを目的に、初年次から参加できるものも含め、多数の留学プログラムを用意しています。これらのプログラムで修得した単位は一定条件のもと、国際日本学部の単位として認定されるため、海外留学をしても4年間で卒業することができます。また、留学に伴う経済的負担を軽減するために、明治大学の授業料の一部を助成する外国留学奨励助成金制度も用意されています。

アカデミック・インターンシッププログラム

アカデミック・インターンシッププログラムでは、国際日本学部が協定を結んでいる大学で授業を受講したのち、インターンシップに参加します。

ウォルト・ディズニー・ワールド提携 フロリダ州立大学アカデミック・インターンシッププログラム

フロリダ州立大学(FSU)で1週間程度の導入授業を受け、異文化理解について学んだ後、オーランドにあるウォルト・ディズニー・ワールドで実際に「キャスト」としてインターンシップを行います。インターンシップ中も継続的にFSUの授業を受講し、授業で学んだ異文化コミュニケーションを現場で実践することができる人気のプログラムです。FSUで修得した単位は、帰国後、国際日本学部の単位認定を申請することができます。このプログラムに参加するには、学部内選考に加えて、ディズニー社の採用担当者による英語での面接を受け、合格する必要があります。

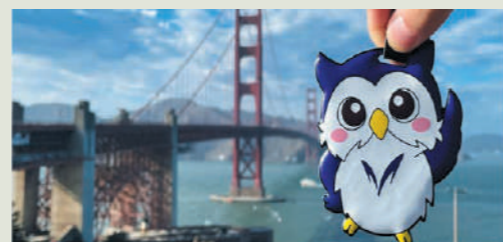


アカデミック留学プログラム

アカデミック留学プログラムは、国際日本学部が協定を結んでいる協定校への約半年から1年間の留学プログラムです。現在協定を結んでいるアメリカ・イギリス・スウェーデン・シンガポールの15の大学等において、現地の学生と一緒にキャンパスライフを送ることができます。



参加条件などは、右の二次元コードからウェブサイトでご確認ください。



留学中の1コマ:アメリカ・ゴールデンゲートブリッジ

▶ 教員紹介・研究テーマ ※2026年4月1日現在 ※退職等により変更となる場合があります。

科目	氏名	研究テーマ
応用言語学	青山 拓実	日本の学習環境における第二言語学習者の心理、第二言語学習のプロセス、第二言語学習動機
日本語の文法/日本語	安高 紀子	日本語学習者の「話す」「書く」能力の育成と評価
メディア・アート	荒木 悠	異文化間の差異や摩擦を主題とした映像表現の実践と可能性について
English	Ito Maitland, Alexander	Curriculum design and student attitudes in EFL classrooms.
国際関係論	Vassiliouk, Svetlana	Japan's foreign relations in the Indo - Pacific Region ; Russia-Japan Relations ; Russia's Arctic policy
フランス語圏文化論	鶴戸 聡	フランス語圏アラブ=ベルベル文学、地中海文学、台湾語文化
日本のものづくり論	呉 在旭	日本のものづくり・システムの国際競争力、その海外移転、各国のものづくり・システムとの比較
英語学	大矢 政徳	依存文法の枠組みに基づいた自然言語の統語構造の明示的定量的比較対照研究
組織マネジメントと文化/知的財産と企業戦略	小笠原 泰	テクノロジー革新と融合するグローバル化による国家、企業、個人間でのパワーシフト・バランスについての研究
広告とメディア	小野 雅琴	広告等のマーケティング・コミュニケーションの様々な情報が、消費者の製品評価に与える影響をテーマに、現象を包摂して説明する理論モデルを構築し、実証する研究
English	Garside, Paul	Development of fluency and interactional competence
インターネットと社会/共生と学びのデザイン論	岸 磨貴子	教育工学、学習環境デザイン、アートベース・リサーチ
アジア太平洋政治経済論	金 ゼンマ	アジア国際関係論、アジア太平洋の制度的経済統合とTPP、FTAをめぐる政策決定過程の日韓比較
ホスピタリティ・マネジメント論	Mary, Quek	ホスピタリティマネジメント、ホテル経営史、観光業
近現代日本文学	小谷 瑛輔	日本近代文学、文学理論、文芸批評、近現代日本文化
日本語の語彙/日本語	小森 和子	第二言語としての日本語の習得の難易を決定づける認知的・言語的要因の解明
ダイバーシティと社会	近藤 佐知彦	談話の点検を通じた社会での自明性演出や正当化課程の分析、ならびに多文化理解・ダイバーシティ教育
メディア社会学/日本のジャーナリズム	酒井 信	現代的な情報環境におけるメディア・リテラシーのあり方に関する研究
ツーリズム・マネジメント	佐藤 郁	観光学、ツーリズムを通じた産学地域連携、観光地のマネジメント
日本社会システム論/ヨーロッパ政治経済論	鈴木 賢志	国民の価値意識と社会心理、日本と北欧を中心とした社会システムの国際比較
映像文化論/映画史概論	瀬川 裕司	映画分析の方法論、映画ジャンル論、娯楽文化研究
テクノロジーと日本社会	田中 絵麻	ICT政策論、コンテンツ産業論、メディア・リテラシー論
日本語学/日本語の歴史	田中 牧郎	日本語語彙の歴史的研究
比較文化学/東アジア文化交流史	張 佳能	大衆音楽を中心とするカルチュラル・スタディーズ
武道文化論/スポーツ・身体運動文化	長尾 進	日本武道の特性と、その国際展開に伴う諸問題について
舞台芸術論/日本とドイツ	萩原 健	現代の舞台芸術(主に日本とドイツ)
日本の文化伝統	馬場 小百合	日本上代文学における漢字表現、韻文の役割について
海外留学入門/国際教育学	ピニロス マツダ、デレク K.	国際教育学視点の移動する人々の文化的アイデンティティの変容、高等教育の国際化
異文化間教育学/インクルーシブ・リーダーシップ	平井 達也	多文化共修を通しての多様性理解、キャリアカウンセリングとポジティブ心理学を活用した幸せな生き方の創造、自分らしいリーダーシップの開発など
心理と言語	廣森 友人	外国語学習の科学:理論・研究・実践
漫画文化論/ジェンダーと表象	藤本 由香里	少女マンガ。特に「性別越境」や価値観・表現の変化を追う。世界に広がるBLと各地のLGBT。マンガの国際比較論
English	Frazier, Erin	CALL in TESOL using virtual reality (VR), augmented reality (AR), artificial intelligence (AI)
English	McLoughlin, David A.	Second language learning motivation; second language learners' causal attributions; the role of affect in self-directed language learning.
アカデミック・ICTリテラシー/学術的文章の作成/国際日本学基礎演習	眞崎 光司	ゼミナールにおける学習、大学教育
日本表象文化論	眞崎 亜有	学際的日本研究:生活文化・ジェンダーと家族・心性に関する日米比較を中心に
世界のなかのアフリカ/アフリカと近現代世界	溝辺 泰雄	アフリカ独自の近代化・自立的発展論に関する歴史的研究
宗教と哲学/日本の哲学	美濃部 仁	西田幾多郎とドイツ観念論における絶対的なものの研究
日本漫画論/アニメーション文化論	宮本 大人	漫画、アニメーションの歴史的研究。特に昭和戦前・戦中期における戦争とのかかわり
日本先端文化論/現代都市とデザイン	森川 嘉一郎	漫画・アニメ・ゲームを中心とする現代日本の輸出文化、およびそのアーカイブ構築や展示手法の研究。都市、建築デザイン
日本語の音声/日本語	柳澤 絵美	日本語の音声知覚にかかわる手がかりの解明とその発音教育への応用
多文化共生論/移民政策論	山脇 啓造	日本の外国人政策および多文化共生のまちづくり
English	Rugen, Brian D.	Literature and language teaching; discourse and identity; English language teacher education
日本の宗教/比較宗教論	Ward, Ryan M.	近代日本宗教史、死生観